

ファーストコンタクト6

闇の創造主との最終決戦



闇の創造主との最終決戦 目次

- 第1章 「道を生みだす創造主」の猛攻
- 第2章 光を生みだす創造主と力を生みだす創造主
- 第3章 光を奪われた第4評議会の創造主達
- 第4章 好奇心に負けて闇の宇宙を作った創造主
- 第5章 生まれ変わる「愛の創造主」
- 第6章 人々の意識を操っていた可憐な創造主
- 第7章 全ての宇宙を闇におとしいれた創造主
- 第8章 救済される種族達、そして光の地球

作者 瀬戸武志&宇宙の光

宇宙の光公式 HP <http://hikari1.com/>

アセンション評議会 HP <http://s-sun1.com>

アメブロ 光の世界へ

<http://ameblo.jp/e-stone1/>

Eメール TAKESHI hikari@k-suai.com

イラスト

えんじえる (佐藤弘之)

アメブロ <http://ameblo.jp/angel-art2010/>

資料 宇宙連合の組織について

		創造主と評議会の役割	スターピープル	闇が生まれた原因
宇宙 連合	第7評議会	全ての宇宙を見守り創造主達の指導を行う。 「全てを見守る創造主」がリーダー	非常に能力が高いスターピープル達が他のスターピープル達を指導。	上の評議会から闇を持った創造主として生み出された「怒れる創造主」が評議会に反乱を起こし全ての宇宙での闇の創造主の大元となる。
	第6評議会	全ての宇宙を見守り創造主達の指導を行う。 「全ての創造主の働きを持つ創造主」がリーダー	非常に能力が高いスターピープル達が他のスターピープル達を指導。	「変化を促進する創造主」が、創造主を成長させたいという理由で宇宙に闇のエネルギーを流すが、本当の理由は宇宙の支配。
	第5評議会	第4評議会が作った全ての宇宙を管理。「陽の働きを持つ創造主」がリーダー	非常に能力が高いスターピープル達が他のスターピープル達を指導。	第4評議会の創造主達から騙されて闇に落ちた「暁の光の創造主」が下部の創造主の光を奪う。
	第4評議会	1人1人の創造主が、独自に宇宙の原型を作り出し、スターピープルと下部の評議会に創造を委ねる。お互いの宇宙にはあまり関わらない。	創造主達が宇宙を創造するために必要なエネルギーや技術を提供するための特別な能力を持つスターピープル達が存在している。	「光を生み出す創造主」と「力を生み出す創造主」が対立していたが共に闇の創造主となり、2人が手を組んで宇宙の支配をもくろむ。下部の評議会の創造主達を闇の創造主に仕立てあげていった。
	第3評議会	「道を指し示す創造主」を中心に、第4評議会の創造主によって作られた宇宙の細かい部分を創造し運営する。他の創造主を信頼するあまり闇落ちた創造主を放置する。	第10アセンション以上のスターピープル達。 グルナレッドやミスト星人等。宇宙のエネルギーの適正化を行ったり、宇宙の健全な運営を担うための働きをする。	「宇宙の創造を管理する創造主」や「道を作り出す創造主」が闇の創造主となり、この宇宙を光の創造主から奪い取るために、闇の創造主達を地球の各地に配置しアセンションを妨害してきた。彼等は第4評議会の創造主に操作されていた。
	第2評議会	「栄光の創造主」を中心に第3評議会によって作られた宇宙の創造と運営を手伝い、第1評議会の働きを管理し手助けを行う。様々な宇宙の中で大きな問題が起きた時はその解決にあたる。	第5アセンションから第10アセンションのスターピープル達。 ロッド星人やエリシタールなどが属し、第1評議会のスターピープルを助けて、叡智ある存在の成長を手伝う。	第3評議会の闇のエネルギーによって過去に創造主大戦争を引き起こした。今回も闇のエネルギーの影響で、第2評議会の中心的な創造主が闇に落ち、宇宙を混乱させ、アセンションを妨害し、私達にも大きなサイキックアタックを行なった。

	<p>第1評議会</p>	<p>「源の創造主」をリーダーに「光彩の創造主」等が上の評議会から託された宇宙を具体的に運営する。また物理世界に生きる多くの存在達の成長を助け、宇宙連合へ迎え入れる。</p>	<p>第1アセンションから第5アセンションまでのスターピープル達。 アシュタール連合や様々な星のスターピープルによって構成され、宇宙の平和と成長を守り、各星の人々の意識進化を手助けする。</p>	<p>上位の評議会からの闇のエネルギーの影響で、第1評議会の創造主のリーダーである「創造主の独自性を育てる創造主」等、主だった創造主が闇の創造主となり大きな勢力を作り、光の創造主を圧倒していた。そのために地球を始め多くの宇宙に闇がはびこり、ダークピープルが宇宙を荒らしまわる事となった。</p>
<p>物理的に存在する宇宙</p>	<p>宇宙連合によって生み出された宇宙、多くの銀河や星団に別れ独自に発展している。</p>	<p>スターピープルとダークピープルが存在。アセンション前の存在達は宇宙連合には入れない。</p>	<p>闇の創造主やダークピープルによって地球だけでなく多くの星々が闇が多い世界となり、人々の成長を阻害している。</p>	

第1章 「道を生み出す創造主」の猛攻

PART 1 人々をディセンションさせる存在

2016年末まで残すところあと1か月となりました。

昨日で、私達は光49%の世界を出て、光54%の世界にはいる事になりました。

私達はこの境界の世界にしばらくとどまり、アセンションした世界にはいる前に、この世界の大掃除をすることにしました。

この位置だと、光51%から55%の世界を見まわることができます。

今朝から、第2、第3評議会のスターピープル達が盛んに動き回っています。

この51%以上の世界が、これから私達が活躍する中心的な場所となり、光50%以下の世界には、創造主の力を借りないと入れなくなりました。

現在私達が行なっている仕事は、光51%以上の世界をきれいにクリーニングして、適正な光と闇の配分の世界に変えていくことです。

もちろん、闇に落ちた創造主達の部下が入り込まないように見張っていないといけません。

これから愛の度数やスピリットの状態によって、人々が、自分にあった光の世界に入ってきますので、人々の受け入れの準備をしていくのです。

12月になっても、私の後頭部にはピリピリとした痛みが走りますので、ピカフラッシュにそのエネルギーの発生源を追いかけもらうと、深い闇の中にかくれている存在がいます。

ロッド星人やグルナレッド達に来てもらい探してもらうと、この世界にいないはずの宇宙最強のダークピープルであるグレシャッド星人達が隠れているのです。

グレシャッド星人の姿をみたロッド星人は大変な驚きようです。

第2評議会のスターピープル達が力を合わせて、彼等を完全に光30%台の世界におしこめた筈なのに、このような位置にまだ残っていたからです。

彼等が残っていると地球人は、大きな闇に飲み込まれてしまうのは間違いないでしょう。

彼等の好物は「核」ですので、彼等は地球人を操って核兵器や原子力発電所を作らせ、核戦争や原発の事故などを引き起こしていくのです。

そして光ある存在達の「光」も大好物ですので、人々から光を無理やり奪いとってしまいます。

おそらく彼等に力を与えてこの場所に連れてきた存在がいるはずで。

私達は、グレシャッドを再び30%以下の世界に押し込めると、光51%の世界に渦巻いている闇のエネルギーをかき分けるようにして犯人を見つけしていきます。

すると、大きな闇の渦巻の中に隠された存在が見つかりました。

大きな情欲のエネルギーを持つ女性系の存在で、人々の欲に紛れてこの世界に入り込んだようです。

調べるとやはり「道を作り出す創造主」によって新しく生み出された存在で、第3評議会の創造主達も全く知らない存在のようです。

すぐに捕まえて調べると、彼女の役目は、スターピープルや人々を闇のエネルギーに巻き込み、愛や光りを奪い取ってディセンションさせていく事です。

彼女が、光51%の世界に存在する事で、この世界に入ってきた多くのスターピープルや人々が光を失い、闇に堕ちていったようです。

私達は急いで彼女によって捕えられた人達を救い出しに行きました。

私達は、この存在を見過したまま、上の世界に入って行ったとしたら、大変なことになるところでした。

光51%の世界は、これから人々が、アセンションした世界に向かうもっとも重要な入り口のような世界です。その場所にディセンションさせるための存在がどーんと居座っていたのでは、アセンションした世界に向かう人達が少なくなってしまうです。

私達は、彼女に関わりのあるゲートや存在を徹底的に調べ上げ、捕えられた人達をさらに見つけだし、仲間のダークピープル達も発見次第、闇の多い世界に分離していきます。

PART 2 地球に隠れていた「道を生み出す創造主」の分身

昨日から、私達は、光51～54%の世界に移り、この世界の問題を処理することにしていますが、夜になってロッド星人達から連絡がありました。

「TAKESHI さん、大変です。

光49%から53%の世界に開いていたスターピープルをこの地球の物理世界に降ろすためのゲートが破壊されているのです。

すぐに来てもらえませんか。」

このスターピープルの入り口となるゲートは、まだ光がさほど多くない世界で、地球人を導くために、スターピープルが地球人に生まれ変わって地球にはいる為の大切なゲートです。

このゲートが破壊されたなら、スターピープルは地球人として生まれてくることができなくなります。

私達はこのゲートを調べていると、スターピープルを地球に生み出すゲートの代わりにダークピープルを地球に生み出すためのゲートが開いていることが分かりました。

私達は、ダークピープルのゲートを手掛かりに探していくと、エネルギーを反転させる能力を持つ創造主が、スターピープルのゲートを破壊したことが分かりました。

彼も「道を作り出す創造主」によって作り出された創造主でしたので、私達は第4評議会の創造主をお願いして彼を光に返し、私達は新たにスターピープルを地球に生み出すゲートを設置しました。

私達は、さらにこの世界に関わる闇の創造主がいなかを神経を研ぎ澄まして探しています。

物理世界の奥底に隠れている創造主は、スターピープルや創造主ではなかなか見つけることができません。

エネルギーのラインを追いかけることができるピカフラッシュだけが頼みです。

私と美樹さんは自分達の体に起こっている痛みやエネルギーの反応などを手掛かりにして、ピカフラッシュにそのエネルギーを辿ってもらい、ダークピープルや闇の創造主を見つけていくのですが、最近では、闇の創造主達も私達の探索方法を研究して、エネルギーラインを隠したり、様々な場所を経由させていくので、エネルギーの追及を行う事も随分難しくなってきました。

私は、この頃から、第4評議会、第5評議会の創造主で、私のスピリットの元となった創造主と意識をひとつにすることを始めました。

そうすることで、巧妙に隠されてピカフラッシュでは追うことができないエネルギーのラインを追うことができます。

物理世界にいる私の意識を使う事で、第5評議会の創造主はどのような次元でも自由に入れますので、闇のエネルギーや物理世界のエネルギーによって巧妙に隠されたラインも探し出して後を追うことができます。

私は、光50%～52%の世界に残された闇の創造主達の痕跡を探し始めました。

すると、海底深く隠された闇のエネルギーを感知しました。

私達が、その場所を辿っていくと、そこにあったのは古代アトランティスの遺跡です。

いくつかある壊れかけた遺跡に、その力は分散されていますが、強力な闇のエネルギーが隠されているようです。

私達は、この遺跡の地下深くに闇の創造主達が隠れているのではないかと推測し、地下深く入って行きます。するとやはり闇の力を操る創造主が隠れていました。

彼等は、破壊された古代文明の怒りや悲しみのエネルギーを操り、古代文明に生きた経験のある人達の意識の中に、その時の恐れや不安などの闇のエネルギーを送り込んでいたのです。

私達は、捕まえた創造主の持つゲートを開いて、彼等がアトランティスだけでなくレムリアやムー、そしてアガルタの古代文明の遺跡にも同じような仕掛けをしていたことを突き止めます。

私達はスターピープルと創造主をいくつかのグループに分け、いくつかの遺跡に隠された闇のエネルギーとそれを操る創造主達を処理することができました。

そして彼等が持っていたゲートから、多くの地球人やスターピープル、そして自然界の精霊たちが捉えられている場所が見つかり、彼等を開放する事ができました。

ロッド星人や救出にあたったスターピープル達は、行方不明になったままで、気になっていたスターピープルや人々のスピリットが助け出されたことをとても喜んでいます。

しかしここで、私のセンサーが、彼等の裏に隠れている創造主を感知しました。

私は、急いで創造主とスターピープル達を集め、その場所に向かう事にしました。

私達は、闇と光が交錯する迷路のようなトンネルをいくつも抜けていきます。

ぐるぐると体も回転しながら、さまざまなエネルギーや光景が、私達の回りを通り過ぎていきます。

いくつものトンネルを抜けた先にあるものは、闇の渦によって作られたブラックホールです。

通常、このようなブラックホールは、私達が「宇宙の大地」とよぶ宇宙を安定させる場所へとつながっているのですが、このブラックホールから吐き出される闇のエネルギーを見ると、そうではない場所へとつながっているのは明らかです。

私達は、勇気を持ってこのブラックホールの中に入り進みます。

ブラックホールを突き抜けると、そこは大きな闇のエネルギーで満ち溢れています。

創造主達が自らの光を輝かせ闇を照らしだすと、そこに隠れていたのは、私達の宿敵である「道を作り出す創造主」の物理世界バージョンの世界です。

つまり、「道を作り出す創造主」はすでにこの地球を始め、物理的な世界を持つ宇宙を支配できるように、物理世界に対応できる自分の分身を作り出し、この場所から地球に降ろした闇の創造主達やダークピープルを操っていたようです。

すぐに第4評議会の創造主達が、彼の力を抑え動けないようにしてくれましたので、私達に被害はありませんでしたが、彼の姿を見た第3評議会の創造主は、心臓が止まるくらいに驚いたようです。自分達が知らない間に、彼はもう地球の内部にまで入り込んでいたのですから、驚くのも無理はありません。

私達は、彼を捕えると、すぐに彼が持つゲートを開いて、彼の部下の創造主や彼の指令を実行するダークピープル達を捕えました。

彼の力は、私達が完全分離を行なう51%以上の世界と50%以下の世界の両方にまたがるものでした。特に50%以下の世界は、私達がこの世界と関われなくなったと同時に、表の世界に現われてすぐに、50%以下の世界を自分の支配下に置き、ここを足掛かりにして、多くの星々や銀河を支配するつもりだったようです。

たとえ本体の「道を作り出す創造主」がいなくなったとしても、彼の力でもこの宇宙をシハするのは十分だったでしょう。

私達は、彼を光に返すと、50%と51%の間のゲートを完全に閉じる作業に入りました。

PART 3 「道を作り出す創造主」の分身と第4評議会の創造主の戦い

大変な事件が12月3日におきました。

私達は、朝起きると胸騒ぎがしてすぐに、ロッド星人とグルナレッド達を呼びだしました。美樹さんも深夜3時ころに「助けてー」という声が聞こえていたのが気になるようです。ロッド星人達が、とても慌てたような表情で現れました。

「TAKESHIさん、おはようございます。

実は大変なことが起きてしまいました。

皆さんがお休みになっている間に、光50%と光51%の分離を、第1評議会のスターピープルと創造主で行なっていたのですが、突然大きな闇の渦巻が沸き起こり、第1評議会のスターピープル達が全員捕えられてしまったのです。

皆さんが寝ている間、TAKESHIさんや美樹さんのスピリットのゲートを使用させてもらい調べたのですがまだ見つかりません。

彼等の生命にも関わる事ですので、すぐに手助けをしてもらえませんか。」

ロッド星人の話によると、物理世界に作り出された「道を作り出す創造主」の分身は1人でなく複数いたようです。

彼等は、第1評議会のスターピープルが光50%と光51%の分離の作業を行っている時をねらって一気に襲い掛かかり、闇の渦巻のようなエネルギーでスターピープルを一気に飲み込んで連れ去ってしまいました。私達と仲が良いエレナさんやガジェット、陽気なポラリス星人、そして1人1人の地球人に献身的に尽くしてきたブラドエルたちのブラッド星人達もすべて連れ去られたようです。

私はピカフラッシュを呼び出し、エレナさんやガジェット達のエネルギーをすぐに探し出すようにお願いしました。

ピカフラッシュも、事態の緊急性が分かっているようです。

一度に多くのピカフラッシュ達が様々な方向に走り出します。

ロッド星人やグルナレッドなどの第2評議会、第3評議会のスターピープル達がピカフラッシュの後を追います。

私も、第5評議会の創造主の力を借りて、隠された世界の探索を始めます。

いくつかの間のトンネルを通り過ぎて、いくつかの次元を移り変わっていくと、特定の場所に彼等のエネルギーを感知しますので、ピカフラッシュ達とスターピープルを呼び寄せ、この場所を集中して調べます。

すると奥底から、スターピープル達が手を振っている姿を発見されました。

エレナさんを始め、多くのスターピープル達がそこに閉じ込められています、様子がおかしいようです。

皆さん喉を抑えて苦しんでいます。

呼吸がうまくできないのか、声も出ないようです。

「エレナさん、ガジェット、大丈夫ですか、一体何が起こったのですか」

呼びかける私をロッド星人が制止します。

とても話ができる状態ではないようです。

「道を作り出す創造主」の分身がやってくる前に、彼等を安全な場所に運ばなければなりません。

助け出されたスターピープルは、皆さんとても弱っています。

多くの第2評議会、第3評議会の創造主とスターピープルに守られるようにして元の世界に戻ります。

そして待ち構えていた救急班によって、宇宙連合の宇宙船に運ばれすぐに治療が開始されました。

私達と、第4評議会の創造主とおよびスターピープル達はここに残って、「道を作り出す創造主」の分身と彼等が持つゲートの処理を行なわなければなりません。

そこに、まるで竜巻のように激しいエネルギーが舞い降りてきました。

「道を作り出す創造主」の分身であることに間違いはないようです。

その竜巻のようなエネルギーは、助け出されたスターピープルを追いかけていきます。

その時、第4評議会の創造主が、「道を作り出す創造主」の分身の前に立ちはだかり、竜巻のようなエネルギーを弾き飛ばします。

「道を作り出す創造主」の分身は違う方向から、スターピープル達を追いかけようとしたのですが、またしても第4評議会の創造主から弾き飛ばされ捕まってしまいました。

私やスターピープル達も創造主同士の戦いを見ることなどめったにないので驚いて立ち尽くしています。

しかも第4評議会の創造主が相手ですから、相当な迫力です。

第4評議会の創造主に「道を作り出す創造主」の分身を拘束してもらっている間に、他の第4評議会の創造主達にも手伝ってもらい、彼のゲートを使って、残りの分身と彼の部下たちを見つけました。

さすがに第4評議会の創造主の迫力に押されたのか、「道を作り出す創造主」の分身たちもおとなしく光に返されていきました。

「道を作り出す創造主」の分身達が捕えていたスターピープル達や人々のスピリット達もまだたくさん残っていましたので私達は次々と開放していきます。

PART 4 肉体と意識を分断されたお腹の中の子供

彼等が捉えていたスピリットの中には、驚いたことに私達と生まれる前の子供のスピリットもありました。きっと私達が寝ている間に私達のスピリットの一部を捕えていったのでしょう。

私達の子供も、第3評議会、第4評議会の創造主のスピリットの一部としてこの地球に生れてきますので、とても重要なスピリットなのです。

彼はその事も知っていたに違いありません。

私達のスピリットは無事に戻ってきたのですが、お腹の子供はピクリとも動きません。

いつもは活発にお腹の中で動き、私達とテレパシーで会話をするのですが、この時ばかりは、何度呼びかけても答えませんし、子供のスピリットの意識も遠い世界にいるように感じます。

美樹さんは、子供に大きな異変が起きたことで、大きなショックを受け呆然としています。

お腹の中の子供はケーキやピンク色の服が大好きなので、私達はその話題をお腹の中の子供に話しかけます。

「これからケーキを買いに行ってお腹と一緒に食べようか。

素敵なお腹の中の洋服が、お店にあったね、かわいかったね。」

いくら声をかけても、お腹の中の子供は何も答えてくれません。

いつもだったら、ケーキ食べたい、とか、ピンク色の服、大好きだよ、とか元気に答えてくれるのです。

私も、美樹さんのお腹に手をあて、子供の気配を感じようとしませんが感じられません。

ロッド星人や創造主に尋ねても、まるでお腹の中がベールをかけられたように隠されて見えないと言います。創造主達も、自分達のスピリットの一部を持っているので、常にコンタクトできるのですが、今は意識がお腹の中になくみたいでコンタクトが取れないと混乱しています。

すぐに、私達の物理的な体を見守る役目をするクワトロ星人に相談すると「すぐに病院に行ってください。」と指示がありました。

幸い、美樹さんのかかりつけの産婦人科は、私達の自宅のすぐ近くにありまして、電話をして急いで向かいます。

私が車で美樹さんを連れて行っている間も、彼女は子供の名前を呼びながら涙ぐんでいます。

今にも、彼女の精神がおかしくなりそうな状態です。

病院に着くと、先生も緊急だという事ですぐに見ていただきました。

幸い、心臓も無事に動いていることが分かりましたので、子供の命に別状はないようです。

クワトロ星人達は、先生の意識の中に入り込み、機械のモニターを見ながら、子供の緊急処置を行っているようです。

まだ胎児ですので、自分の体とスピリットの結合が弱いために、お腹の子供のスピリットが奪い去られたときに、体と意識のつながりを立ち切られたようです。

クワトロ星人や創造主達がそのつながりを修復しています。

やがて子供の体とスピリットの結合がもとに戻り、お腹の中で動く気配がしてきました。

そして子供の声もテレパシーで聞こえるようになってきたようです。

美樹さんも涙を浮かべて喜んでいきます。

子供も創造主としての仕事をしている間は、体の意識からはなれますが、体に帰ろうとしたときに体に戻る事ができなくて焦ったようです。

「もう体からはなれない」と言って、お母さんのお腹の中にしがみついて泣いています。

「道を作り出す創造主」達のサイキックアタックは並大抵のものではないという事を、私達は身を持って知っていますので、私達が起きて居る時ならまだしも、私達が寝ている間の隙について行われた、このアタックによって、私達は尊い命を失うところでした。

私達の子供の命を危険にさらしたことや思いがけない攻撃により多くの第1評議会のスターピープルを傷付けたことに関して第1評議会から第4評議会の創造主達は緊急会議を開きました。

そして、分身とはいえ「道を作り出す創造主」の存在を見逃した事、彼の攻撃を予測できなかった事などの反省が述べられているようです。

そして何よりも、私達の子供の生命を失う危険性があったことに対して多くの批判が第1評議会、第2評議会の創造主から上位の評議会にたいして起こりました。

これは、第4評議会の創造主が第5評議会の創造主の指示を受けて、光49%の世界に異変が残っている可能性があるという事で、私達をあえて光49%の世界に戻し、調査を続けていたために、「道を作り出す創造主」の分身による攻撃をまともに受けてしまった結果だという事でした。

私達も、前回の会議では、光51%以下の世界には戻らないとしていたのですが、第5評議会と第4評議会の指示により、私達は光49%の世界に降ろされていたようです。

第5評議会の創造主も第4評議会の創造主も、自分達の予測をはるかに超える事態に対応できなかったことを反省し、私達が、これからは光51%以下の世界には関わらないことに決定したようです。

もし、ここでお腹の子供が現実世界に生み出されることがなければ、地球のアセンションの最終的な成功はないために、これ以上私達を危険にさらしてはいけないと判断したようです。

其れも当然です。

子供の命が狙われてスピリットが、子供の体から切り離されたのは、私が病院に入院していた時もありましたので、これで2度目だったのではないのでしょうか。

子供は生まれて6か月を過ぎるまでは、未だ肉体とスピリットや意識のつながりが弱く、簡単に切り離されるので用心しないとはいけません。

第2章 光を生み出す創造主と力を生み出す創造主

PART 1 「光を生み出す創造主」と「力を生み出す創造主」

私達は、会議の中でさらに残っている問題点を追及します。

それは、光50%以下の世界もそうですが、光51%以上の世界にもまだたくさんの闇のエネルギーが残っているという事のようにです。

私はその時に、くしゃみが連続して出始めました。

何らかのエネルギーを感じているようです。

私達は会議を中断して、このエネルギーがどこから来ているのか、調べることにしました。

私は、第5評議会の創造主の意識となり眼を閉じます。

そして様々なエネルギーの渦の中を通り、たどり着いた場所に創造主のエネルギーを感じます。

私は、創造主達にこの場所に来るように指示しました。

第3評議会の創造主が調べると、そこには一人の創造主が傷つけられ閉じ込められていました。

私は、この創造主が誰であるか、問いました。

すると第4評議会の創造主が、私に答えてくれました。

「TAKESHIさん、この創造主は、先日「道を作り出す創造主」の部下の創造主を使って、地球の物理世界を闇に貶めようとしていた「宇宙の創造を管理する創造主」の光の部分のスピリットです。」

その答えに多くの創造主が動揺しています。

「「宇宙の創造を管理する創造主」は、第3評議会の代表的な創造主でとても大きな力を持っている創造主でした。

彼は、「道を作り出す創造主」が闇に堕ちるはるか昔に闇に堕ちてしまったのですが、その理由が私達にもはっきりと分かっていませんでした。

しかしここに「宇宙の創造を管理する創造主」の光のスピリットがあるという事は、この創造主の上位にあたる創造主が、彼を光と闇に分け、光の部分を封印し、闇の部分だけを利用して、彼を闇の創造主として利用していたことになります。」

第4評議会の創造主が答えると、全ての評議会の創造主達に大きな緊張が走ります。

もしかしたら、「宇宙の創造を管理する創造主」を2つに分けて封印した創造主が近くにいるかもしれません。

私は、第1評議会と第2評議会の創造主とスターピープルを、すぐに退去させました。

もしそれだけの力を持つ創造主が出てきたら、彼等はひとたまりもなくやられてしまうでしょう。

私は、第4評議会の創造主に、今迄で行方が分からない創造主がいないか聞いてみました。

第4評議会のリーダーは、しばらく目を閉じて考えているようです。

「そうですね、実は皆さんが所属する宇宙の第3評議会を作り出した創造主が、引退するという形でいなくなっています。

「宇宙の創造を管理する創造主」の直接の上司のような創造主でしたので、もし彼がいたなら、何らかの事情を知っているかもしれません。」

と、第4評議会のリーダーは話してくれました。

私達は用心しながら「宇宙の創造を管理する創造主」の光のスピリットを封印から解き放ちました。誰が出てきてもいいように、第5評議会の創造主に周りを見張ってもらっていますので、第3評議会、第4評議会の間に堕ちた創造主が出てきてもすぐに動きを止めてもらう事が出来ると思われま

私達が、作業している時に、やはり「宇宙の創造を管理する創造主」を分離し封印した創造主が稲光のように激しいパワーで現れました。

その光は私達を突き刺すような鋭い刃物のような光で、凍えるようなエネルギーを発していました。

すぐに第5評議会の創造主が捉えてくれましたが、彼のエネルギーは、第3評議会をはるかに超えていることがすぐにわかりました。

もし、第5評議会の創造主が守ってくれていなければ、私達も危ないところでした。

そしてそのあとも、深い闇のエネルギーで、私達を溶かしてしまおうとするかのような闇の創造主が現れました。

その闇は、瞬く間に私達を取り囲み、私達を漆黒の恐怖で包もうとします。

先ほどとは別の第5評議会の創造主が、その漆黒の闇を内側から突き破るように大きな光を放ち、彼の動きをとめてくれました。

残っていた第3評議会の創造主達は、突然襲ってきた大きなエネルギーに身がすくみ動けないでいます。

もし第5評議会の創造主がいなければ、第3評議会の創造主やスターピープル達は瞬時にやられていたかもしれません。

私は、捕まえられた創造主を見ながら、第4評議会の創造主達に、この創造主達の事を尋ねました。

第4評議会の創造主は、なぜこの創造主がここにいるのだ、という顔をして答えます。

「彼等は、皆さんの宇宙や評議会を作りあげた第4評議会の代表的な創造主の部下の創造主でした。

先ほど、私が引退した創造主の事をお話ししましたが、彼等はその創造主と共に働いていたのです。

彼が引退してこの宇宙を去ってしばらくしてから、彼等もいなくなってしまったので、私達もどうしたのかな、と思っていましたが、まさか闇の創造主になって、このような事をしているとは考えもしませんでした。」

私は彼等の役割について第4評議会の創造主に尋ねます。

「はい、1人は「光を生みだす創造主」で、もう1人は「力を生みだす創造主」です。

彼等は、引退した創造主の部下として、創造主が計画したプログラムに光と力を与え、宇宙を創造する手助けをしてきました。

彼等は、相反するエネルギーを持っていましたが、引退した創造主が、彼等のエネルギーのバランスをうまく取りながら宇宙を創造していたのです。

皆さんの宇宙が生まれてからしばらくして、皆さんの宇宙を作りあげた創造主が引退した後は、彼等がそのあとを引き継ぎ、うまく宇宙を運営していると思っていました。」

私は第4評議会の創造主を見つめて言いました。

「しかし、彼等は2人とも、闇の世界に堕ちてしまい、「宇宙の創造を管理する創造主」を、光と闇に分離し、その正常な意識と働きを奪いました。

そして「宇宙の創造を管理する創造主」の闇の部分を使って、闇の創造主を作り、自分達の部下にしてしまったようですね。

その事によって引退した創造主が作り上げた宇宙は、大きな闇を秘めた宇宙になってしまったことに、第4評議会の創造主達は気づかなかったのですか。」

第4評議会の創造主は、しまった、と言わんばかりの顔をして答えます。

「大変申し訳ありませんでした。

第4評議会の創造主は、1人1人が独立して自分の考えで自由に宇宙を作ってもいいようになっています。

私達は、他の創造主の行う事にはあまり干渉せず、お互いの独自性を尊重しています。

もちろん、他の宇宙に迷惑がかかる事に関しては、お互い相談し合って決めますが、私達はお互いを信頼し合っていますので、その様なことは起こらないと考えておりました。」

第4評議会の創造主は、今まで第3評議会の創造主の過ちを責めてきただけに、自分達にも同じ過ちがあったという事に気づき慌てています。

「それでは第4評議会の「光を生み出す創造主」と「力を生み出す創造主」が、闇の創造主になった事で、第3評議会の「宇宙の創造を管理する創造主」が分離され、闇の力を持った「宇宙の創造を管理する創造主」が彼等の部下になったことを認めますね。」

第4評議会の創造主は、しぶしぶうなずきます。

「そうすると、第3評議会の「道を作り出す創造主」が、闇の創造主として強大な力を持ったのは、この「宇宙の創造を管理する創造主」のたくらみによるものでしょうから、第2評議会の創造主を巻き込んだ創造主戦争を起こして、その闇のエネルギーにより第2評議会の創造主のリーダー達を壊滅させたり、第1評議会の多くの創造主を闇の創造主にしてしまった根本の原因は、この第4評議会の2人の創造主であったと言えませんか。」

「確かにそうです。

私達が、自分達の宇宙の創造にばかり気をとられ、この2人の創造主の事をしっかりと見守っていなかったことは、私達の大きな過ちでした。

第5評議会の創造主からも、もっとまわりの創造主同士で協力し合い、お互いを成長させるようにと、アドバイスがあったのですが、私達はその指示に十分に従う事はありませんでした。」

第4評議会の創造主は、自分達の過ちが、下の評議会に大きな影響を与えてしまったことに大きなショックを受けています。

PART 2 「流れを作る創造主」による証言

「第4評議会の創造主よ、皆さんの世界でほかにいなくなった創造主や連れ去られた創造主はいませんか、もしこの2人の創造主に仲間がいるとしたら、さらに大変なことになるのですぐに調べてください。」

第4評議会の創造主の1人が答えます。

「そういえば、「流れを作る創造主」が最近見当たりません。」

「最近とは、いつの頃ですか」と私は尋ねます。」

「地球時間で言えば、3～4億年ほど前の事です。」

確かに、創造主にしてみれば、つい最近の事かもしれませんが、私達にとっては大変な時間です。

「その創造主の役割はどのような役割だったのですか。」

「彼はいくつもの宇宙を見回りながら、宇宙の創造に関わる時間やエネルギーの流れを調整する役目でした。彼は、自分の宇宙を自ら創造するのではなく、第4評議会の創造主達のサポートをする役目です。」

私は、ピカフラシュに「流れを作る創造主」のエネルギーの質を教えるように第4評議会の創造主にお願いしました。

ピカフラシュ達は、エネルギーを調べるとすぐに、広い宇宙に向かって走り出していきました。

ロッド星人やグルナレッド達も、ピカフラシュの後を追いかけます。

第4評議会の創造主も、全員が集まって独自に探し始めました。

やがて大きな渦が広がっている場所が見つかります。

ピカフラシュ達が次々とこの中に飛び込んでいきますので、私達もその中に入ります。

すると「宇宙の創造を管理する創造主」と同じように、2つのエネルギーに分けられ動きを封じられた創造主がそこに閉じ込められています。

言うまでもなく「流れを作る創造主」です。

幸い、分離されたエネルギーは傷つけられる事もなく闇に染まる事もなく無事でした。

第5評議会の創造主によって「流れを作る創造主」のエネルギーは再統合されもとの創造主に戻りました。

私は、「流れを作る創造主」に、何故このような事が起きたのか質問しました。

「私は、第4評議会の創造主達が作る宇宙の時間やエネルギーの流れを生み出すことが役目の創造主です。

私が、第4評議会の創造主達が作る宇宙に異常がないかを見回っていた所、引退した創造主が作った宇宙でいくつかの問題が起きていました。

最初は、「光を生み出す創造主」と「力を生み出す創造主」が、どちらが引退した創造主の変わりに、彼が作り上げた宇宙の代表者になるか争っていました。

お互い性格が異なる創造主ですので、自分が相手の部下になる事は屈辱的なことだと考えていたのです。

彼等は争ううちに、自分達の心に支配欲が芽生え、相手を制圧したいと思うようになってきたのです。

彼等の欲望はどんどん高まり、やがて2人とも闇の力に飲み込まれていきました。

すると今度は、お互いの闇の力が同調し合い、2人で協力すれば、引退した創造主が作った宇宙だけでなく他の創造主が作った宇宙も支配できるのではないかと、考え始めたのです。

そして彼等は、彼等の宇宙を管理する役目を持つ「宇宙の創造を管理する創造主」を捕まえ、この創造主の光を持った部分を奪い取り、闇の創造主に仕立てあげて、自分達の部下にしてしまったのです。

私は、このまま放っておくと、他の創造主達の宇宙にまで大きな影響が出ると思い、彼等の事を第5評議会の創造主に報告しようとしたのですが、その前に彼等に見つかってしまい捕えられてしまいました。」

この「流れを作る創造主」の話によって、「力を生み出す創造主」と「光を生み出す創造主」は大変な罪を犯していたことが判明しましたが、まだ、彼等が行なった事の全てが明るみに出たわけではありません。

第5評議会の創造主は、全てが明らかになるまで、彼らの力を奪い取り、何もできないように拘束することを決定しましたので、私達も後の処理は第5評議会にお任せすることにしました。

しかし、第4評議会の創造主達は、彼の報告を聞いて考え込んでいます。

「私達は、自分達が創造した宇宙を危うく奪いとられるところでした。

私達が、もっと気をつけていれば、このような事態にはならなかったことでしょう。

きっと皆さんの宇宙の第3評議会の創造主達も「光を生みだす創造主」達から意識をコントロールされてしまい、闇に落ちた「道を作り出す創造主」やその仲間達を光に返さずに、見逃してしまったのではないかと思います。

これも私達の責任です。」

第4評議会の創造主はうなだれてしまいましたが、私は彼等を元気づけるように言います。

「今、その様なことを言っても仕方ありません。

闇に堕ちた「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」が、他の創造主に影響を与えていないか、地球の物理世界で何か企んでいなかったか、急いで調べて解決しましょう。」

私はこれから話そうとする事の重大さにため息をつきました。

「確かに、私達の宇宙や評議会の創造主を生み出したのは、すでに引退した創造主であるかもしれませんが、彼等は私達が所属している宇宙の一番上のレベルにいました。

という事は、私達の宇宙の実権を握っていたのは闇に落ちた2人の創造主だという事です。

もし、第5評議会の創造主がいなければ、私達は彼等の言うなりになって支配されてしまっていたでしょう。

この2人の創造主は、やがて光に返されるでしょうが、彼等が作った様々な創造主や罫が私達を持ちかまえているかもしれませんので、私達はあきらめずに戦いましょう。」

闇に落ちた第4評議会の創造主が捉えられたことを聞いて、第1評議会、第2評議会の創造主やスターピープル達も戻ってきました。

皆さん、私の言葉を聴いて共に戦う決意をしているようです。

今迄も、さんざん上位の評議会の創造主に泣かされてきましたので、だいぶたくましくなったようです。」

私達は、全ての評議会の創造主とスターピープル達に「力を生みだす創造主」と「光を生みだす創造主」のエネルギーが入り込んでいないか調べてもらいます。

するとエネルギーのみで存在している創造主とスターピープルには影響がありませんでしたが、物質的な体を少しでも持っている物理世界の創造主とスターピープルにはその影響が出ているようです。

私達は、第5評議会の創造主をお願いして、その闇のエネルギーをすぐにクリアリングしてもらいます。

そして地球の物理世界を調べてもらおうと、彼等の力を全て奪い去ったことで、彼等が行っていた事がはっきりとわかるようになってきました。

彼等は、地球や他の星々に対しても、闇のエネルギーを物質世界に流し込み、様々な闇の創造主やダークピープルを育てることを行っていたのです。

多くの存在が、知らないうちに彼等の指示に従うようになり、闇のエネルギーを取り込み始めます。

それが、先日処理した「闇のアメーバー」や「光を奪い取るアメーバー」達が作られた目的だったのでしょう。

この地球に適正なエネルギーをもたらす装置を稼働させていた第3評議会のスターピープルであるグルナレッドも納得顔で話します。

「TAKESHIさん、これで私達の機械が有効に働いていない理由が分かりました。

私達の機械はフル稼働して、光に満ちたエネルギーを物質世界に送っているのですが、全く効果が表れないのです。

地球の闇が深すぎるのかなと、思っていたのですが、私達の力をはるかに上回る第4評議会の闇の創造主達の力が、この物理世界で作用していたとなれば、それも当たり前です。

彼等の力を排除できれば、私達の機械は、もっと効果を上げることでしょう。」

この2人の闇の創造主によって生み出された闇の力は、第4評議会の創造主と第5評議会の創造主達によってとり除かれることになりました。

後は、この2人の闇の創造主が、地球の物理世界に自分達の分身を生みだしていないことを祈るだけです。

PART 3 闇の創造主の分身と闇のマイクロチップ

4日の夜、私の予想は見事に裏切られました。

やはり首が痛くくしゃみが出るので、私が今いる光54%の世界を調べることにしました。

ピカフラッシュに調べてもらおうと、やはり闇に落ちた2人の創造主は、自分の分身を生みだし光54%の世界に隠していました。

この場所で、光を持っている人々がアセンションした世界に上がらないように光を奪い取り、阻止するつもりだったようです。

そして同じように光49%の世界にも自分の分身を作っていることが分かりました。

彼等の本体が、光に返されていなくなってしまったので、彼等も力を失い、隠れていても見つかるようになってしまったのです。

しかし、分身とはいえ、第4評議会の創造主ですので強大な力を持っています。

おそらく彼等が「道を作り出す創造主」の分身や先日捕まえた第3評議会の闇に落ちた創造主達を使って、地球や宇宙を自分達の物にする計画だったのでしょう。

私達は、常に第5評議会の創造主達に守られながら行動しています。

そして「光を生み出す創造主」と「力を生み出す創造主」の分身は見つけ次第、光に返していきます。

最近、おかしいことに、私達の周りを死者たちの姿が見え隠れしますので、光51%以上の世界の黄泉の世界を統治する創造主に出てきてもらいました。

彼は第3評議会の創造主の1人でもあります。

光50%以下の世界にある黄泉の世界と違って、光が多い世界にある黄泉の世界は、素晴らしいスピリットや魂を持つ者達が次の転生を待つための場所でもありますので、ほとんど混乱は起こらないはずです。

彼は私の前に出てくるとこのように言いました。

「闇に落ちた「光を生み出す創造主」と「力を生み出す創造主」の分身たちが、この世界に入ってきたことで黄泉の世界も混乱して、黄泉のゲートが開き、TAKESHIさん達の元へも死者たちが光を求めて押し寄せているようです。

今第5評議会の創造主たちが、この世界を調べてゲートを閉じるようにしていますので、しばらくお待ちください。」

しかし私の目の痒さやくしゃみは、まるでアレルギーを起こした時のようにひどくなります。

美樹さんも体中がかゆくなってきたようです。

これは、どうも、私達の脳神経にエネルギーを送り込み、私達の意識をかく乱させるためではないかと私は考えました。

私は、ピカフラッシュを呼び、私の鼻や頭から出ているエネルギーを調べてもらう事にしました。

「確かに、黄泉の世界の扉が開くことで、死者たちが私達の光を求めて集まってきているのはわかりますが、問題はそれだけではないようです。

死者がエネルギーを奪い取っているように見せていますが、彼等が取り巻いて隠しているエネルギーのラインがあります。

彼等は、このエネルギーラインを見せないためのカモフラージュなのです。」

第3評議会の創造主は、少し驚いたような顔をしています。

私達が、隠されたエネルギーのラインをつたって黄泉の世界の深い場所に入っていくと、やはり死者たちの群れに隠れて「光を生みだす創造主」がいました。

もちろん近くには「力を生みだす創造主」も隠れています。

すぐに第5評議会の創造主に来てもらい、彼等を捕まえてもらい、光に返してもらいます。

しかし、私の鼻や脳の奥には、何かしら違和感が残りますので、医療班のクワトロ星人に調べてもらうと、まるで針先のような、超小型のマイクロチップが見つかりました。

これが、この2人の間に落ちた創造主としっかりつながっているのです。

もしかしたら、彼等はこのマイクロチップを使って私達の行動を調べたり、意識の操作をしていたかもしれません。

このマイクロチップの事を第4評議会の創造主に尋ねます。

「この機械は、創造主が作ったものではなく、おそらくスターピープル達で作った物でしょう。」とこたえて第4評議会の科学部門のスターピープルを呼んでくれました。

私達の前に、すぐに優秀そうなスターピープルがやってきてくれました。

第4評議会のスターピープルと会うのは、「闇のアメーバー」対策の時に続いて2回目です。

彼等は、科学技術や宇宙工学の専門家たちの集まりで、下部の評議会のスターピープル達にも、いつも指導を行なっています。

それぞれの創造主達が、宇宙の創造を行う時に、スターピープルたちは、必要に応じて専門的な役目を担っているようです。

科学技術専門のスターピープルは、私達についているマイクロチップを抜き取ると調べています。

「このチップは、私達で作った物ですが、誰かが手を加えて異なる目的のために使用しているようです。」

「本来の目的とはどのようなものでしたか。」と私は尋ねます。

「本来は、まだ意識や能力が成熟していない人々や存在に埋め込んで使用します。

目的は、人々が光を取り込み、スターピープルや創造主の指示に従って意識を成長させるための物ですが、このチップは反対に闇を取り込み、闇の創造主の指示に従うように作られています。」

「それでは、このチップを無効にするか消滅させることはできますか。」

「もちろん簡単です。私達で作ったものですから。」

私は彼等の言葉に一安心し、地球人や肉体を持つスターピープルからこのチップを取り除くことをお願いしました。

しかし、闇の創造主達は、幾層にもわたって人々に闇を取り込み、闇の創造主に従うような仕組みを作り出していることに驚かされます。

私も、「闇のアメーバー」とこれらの装置が共に作動することで、首が痛くなったり体調不良を起こしていましたが、普通の人には、様々な欲望や自己中心的な思い、依存心などを掻き立てられ、闇のエネルギーに飲み込まれていくようです。

地球が、これほど闇が多い世界となり、地球人がダークピープルに支配されてしまったのも、まさにこれらの仕組みのせいなのでしょう。

私達は、これらの仕組みをひとつずつ明らかにして、人々から取り外していきますが、自分の心がすっかり闇に染まり、自己中心的な思いで生きている人からは、取り除くことはできません。

しかし、心の中に愛を持ち続けたいと思っている人からは、このような装置を取りはずし、地球の闇のエネルギーを処理することで、確実に愛の度数をあげ、今よりも光の度合いが強い世界に入っていくことができるようになります。

第3章 光を奪われた第4評議会の創造主達

PART 1 アセンションする人々を閉じ込める施設

私達はこの日もロッド星人から緊急の連絡を受けました。

「TAKESHI さん、光54%の世界で、大変なものが見つかりました。
多くのアセンションする予定の人達が閉じ込められている場所を見つけたのです。」

私と美樹さんはすぐにスピリットなってその場所に行くと、大きな壁のような物に捕らわれた場所がありました。

「TAKESHI さん、この場所は、これからアセンションしていく世界に人々が入るための通過点です。
ここに「光を生み出す創造主」と「力を生み出す創造主」の分身が、人々を捕える為の仕掛けをしていたみたいです。

この世界に来た人たちは、この施設に引き寄せられるようにして入って行くのですが、この中に入ると出てくることができなくなっています。

私達も、この壁を破壊して中に入ろうとしたのですが、この壁と中に閉じ込められた人々の意識がつながられ、私達がこの壁を破壊しようとする、中にいる人達に危害が加えられるようになっているようです。
どうしたらよいのかと、こまっているのです。」

確かに多くのスターピープルたちが困惑した顔でこの壁を見えています。

私もしばらく様子を見た後に答えました。

「これはよく私達が使う方法ですが、創造主か魔法使いにお願いして、時間を止めてもらいましょう。
創造主の分身といえども、物理世界にいるので、時間の制限は受けるはずですよ。
そうですね、第4評議会の「流れを作る創造主」が、時間のコントロールができるはずですから、彼に時間を止めてもらい、壁の隙間から、第4評議会のミス星人が、霧状になって入り、入口をあけるという方法はどうか。」

「わかりました。それではすぐに取り掛かりましょう。」

私は、「流れを作る創造主」を呼び寄せ、この施設の中の時を止めてもらうようお願いしました。

「流れを作る創造主」は、銀色の光を操り、施設の中にいる人々の時間を止めます。
そしてミス星人が、隙間から入り込み、壁と人々の意識がつながられていた回路を切り離すと、施設の入り口が開きます。

待ち構えていた多くのスターピープルが施設の中に流れ込み、捕えられていた多くの人々を助け出します。
そして、手助けに来た第4評議会の創造主によって、「光を生み出す創造主」と「力を生み出す創造主」の分身達は光に返されていきました。

しかし、何時の間にこのような施設を作ったのでしょうか、不思議です。
分身とはいえども第4評議会の創造主が本体ですから、このくらいの事は瞬時にできるのかもしれませんが、先が思いやられます。

PART 2 「公正さを司る創造主」の復活

人々を捕える施設の処理が終わると、スターピープル達は、アセンションした人々が入る予定の光56%の世界を見回っています。

アセンションの区分では、光56%から59%までの世界が、「光の地球」にはいる為の学びの世界となりますが、この光56%の世界から「光の地球」までがアセンションした世界となります。

人々は、この中でスターピープルになるための教育を受け、第1アセンションを迎えてスターピープルとなることができます。

そのためには、この時期にまでに光56%以上の世界にはいる事が大切なのですが、まだまだこの世界に入れる人は少ないようです。

しかも、アセンションする世界の入り口ともいえる光54%の世界に、先ほどのような罫が作られては、なおさらアセンションした世界に入れる人は少なくなってしまうます。

光56%の世界を見回っていたスターピープルから緊急連絡が入りました。

「TAKESHI さん、グルナエルです。

光56%の世界に、また創造主の一部と思われるエネルギーを感知しました。

すぐに来てもらえますか。」

私達は、急いでグルナエルのもとに向かいました。

すでに第4評議会の創造主達も集まり、闇のエネルギーの中から、分断された創造主のスピリットを助け出そうとしています。

周りが緊迫した雰囲気にもまれ、第5評議会の創造主もやってきてくれました。

「TAKESHI さん、このエネルギーはどうも第4評議会の創造主の物のようです。

先日助け出した「流れを作る創造主」と同じような状況ではないかと思われまます。

おそらく、このエネルギーは分断されていますので、私の仲間が分断された他のエネルギーも探しています。」

第5評議会の創造主が、大きな闇のエネルギーの塊に光を当て、次々に闇のエネルギーを切り離していきます。するとその中から純白に光輝くエネルギーを持った創造主の一部が出てきました。

そのエネルギーはまさしく第4評議会の創造主達のエネルギーです。

その時グルナエルの仲間からも連絡が入りました。

同じようなエネルギーを、光57%の世界に見つけたというのです。

第5評議会、第4評議会の創造主達が、その場所に向かいました。

そして同じように、闇のエネルギーが切り落とされ、先ほどと同じように純白に輝くエネルギーが救出されました。

このエネルギーは非常に力強く、闇のエネルギーに染まることなく輝いていますので、第5評議会の創造主によって、統合されると立派な姿をした創造主に戻って行きました。

「あなたは、「公正さを司る創造主」ではないですか、あなたまで分断されてしまったとは、これは第4評議会にとって大変なことです。」と創造主の一人が叫びます。

第4評議会の「道を指し示す創造主」に、この創造主の事を尋ねました。

「TAKESHIさん、この創造主は、独自に宇宙を創造するのではなく、私達が作った宇宙を調べ、間違いなく運用されているかどうかを調べる創造主です。

彼は「公正さを司る創造主」と呼ばれ、問題があれば、独自の判断でその修正を行う事が許されている創造主です。

「流れを作る創造主」と同じような立場にあり、第4評議会の大切な要となる創造主なのです。」

私は、このような重要な創造主が、どうしてこのように分断され、働きを止められていたか不思議です。

おそらく、彼等がいることで自分達が行なっている不正が明るみに出ることを恐れた「光を生み出す創造主」と「力を生み出す創造主」による仕業であることに間違いはないようです。

PART 3 いなくなった第4評議会の創造主

創造主達も、第4評議会の重要な創造主がこのように、スピリットを分断された形で発見されていく事に大きな恐怖を抱き始めました。

私は、第4評議会の創造主を集め、他にいなくなった創造主がいないかすぐに調べてもらいました。

彼等は日頃から常に交流している訳ではないので、たとえ仲間がいなくなったとしてもわからないようです。

「流れを作る創造主」や「公正さを司る創造主」は、自分達で独自に宇宙を創造するのではなく、創造主達が作った宇宙を調べ不正や問題がないかを、第5評議会に報告する責任を持った創造主でした。

彼等は非常に時間にも正確な創造主でしたので、しばらく報告がないことを不思議に思った第5評議会の創造主達は、第4評議会の異変に少しばかり気づいていたようでした。

第4評議会の創造主達が調べ終わったようです。

「TAKESHIさん、私達が調べてみると、5人ほどの創造主が見当たりません。

彼等が創造した宇宙もそのままなのですが、彼等がどこに行ったのかわからなくなってしまいました。」

私は、心の中でしまった！と思いました。

全ての評議会の創造主やスターピープル達が、最悪の結果を予想し動揺しています。

私達は、第5評議会も含めて、全ての創造主達とスターピープル達と共に、彼等の行方を探すことにしました。

沢山のピカフラッシュにいなくなった創造主のエネルギーを覚えてもらい、一斉に解き放ちます。

第5評議会の創造主も、探索用の機械を使い独自に探し始めました。

するとピカフラッシュは、様々な方向に走り出していきます。

そしてそれを追うように、創造主とスターピープル達のグループも走り出していきました。

私達も、目を閉じ、自分達のセンサーを最大限にして探し始めます。

しばらくすると、あちらこちらで分断された創造主のスピリットが見つかり始めました。

おそらく、第4評議会の創造主を捕え、そのスピリットを分断して隠していたのも「光を生み出す創造主」と「力を生み出す創造主」の仕業だと思われそうですが、あまりにも残忍で無慈悲なやり方に、多くの創造主が言葉をうしなっています。

第4評議会の創造主はとてもパワーが大きいので、そのまま捕えてもすぐに逃げ出してしまうし、たとえ逃げ出すことができなくても、他の創造主に連絡してすぐに助けに来てもらえます。

「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」はそのことを恐れて、まるで創造主の息の根を止めるように、彼らの光を分断して、彼らの意識が働くことがない状態で隠したのです。

しかも大変なことに、その分断された創造主の中に、創造主達の世界をずっと探査し続けて上位の創造主に情報を送り続けていた創造主も含まれていたのですが、この創造主は、美樹さんを生みだした大元の創造主から作り出された創造主で、美樹さんと同じスピリットを持つ創造主でした。

美樹さんは今朝から、体がバラバラになるような痛みと感覚をずっと味わい、体調不良を訴えていましたが、その原因が、彼女とスピリットを共有する創造主の命が奪われていた為だと知って愕然としました。

おそらく、この探査役の創造主がいては、自分達の不正がばれると思った「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」が、創造主を捕えて分断したのだと思います。

いなくなった5人の創造主の内、2人の創造主は第5評議会の創造主の力でもとに戻してもらうことができましたが、美樹さんの創造主を含め3人の創造主は、もう生まれ変わる事も出来ず、そのまま光に返されました。全ての創造主を重苦しい沈黙が包みます。

このような悲惨な出来事は第4評議会では今までで経験したことはありませんでした。

しかし、私はとても不思議に思うことがありました。

確かに「流れを作る創造主」や「公正さを司る創造主」達はだいぶ前に分断されたようですが、美樹さんの創造主はつい最近まで元気に活動していたので、このような悲惨な事故が起きたのは決して遠い過去ではなくこの数日の事ではないかと思えます。

もしかしたら、私達が「道を生みだす創造主」を光に返した事を知って、自分達の行っていることが明るみに出ることを恐れて、急に動き始めたのかもしれない。

しかし、第4評議会の創造主の生命を、誰にも知られないように奪うという事は、たとえ闇の力をつけたとはいえ「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」だけでできる事とは思えないのです。

私はこの5人の創造主と「流れを作る創造主」、「公正さを司る創造主」の7名の創造主を捕え、光を分断するだけの力を持った創造主が、彼等に協力したとしか思えません。

考えられるとすれば、第4評議会の生みの親でもある第5評議会の創造主の中に「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」に力を貸した創造主がいるのではないかという事です。

私は、美樹さんにつながる探査役の創造主の意識を美樹さんにつないでもらいました。

この創造主は、もうすでに統合して元に戻る事は不可能とされた創造主ですが、彼女のスピリットの意識の1部にでもコンタクトができれば、この創造主を分断し殺害した創造主の事を知ることができるかもしれないのです。

するとやはり、2人の間に落ちた創造主のほかにも協力者がいるようです。

美樹さんの意識の中に、3番目の創造主が浮かび上がってきました。

PART 3 闇の種に入れられた「暁の光の創造主」

私は、第5評議会の創造主に集まってもらいました。

「第5評議会の創造主の皆様、本当に申し訳ありませんが、私はこれほど多くの創造主が、光を分断されて生命を奪われたことがとても不思議なのです。

その犯人を捜すためには、皆さんのお力が必要なのです。

どうか、皆さんのお力を私に貸していただけませんか、皆さんだけが頼りなのです。」

私は、第5評議会の創造主に頼み込みました。

「TAKESHIさん、もちろんです。

私達にとっても、今まで例がないことです、私達も協力しますので、この真相を突き止めましょう。

其れで私達は、何をすればよいのですか。」

「ありがとうございます。ご協力を感謝します。

それでは皆さんを、調べさせてください。」

私の言葉に、第5評議会の創造主は、自分の耳を疑ったようです。

皆さん、顔を見合わせています。

「それでは、スターピープルの皆さん、すぐに調べてください。」

第5評議会のスターピープルとは、私はあまり顔なじみではありませんが、グルナレッド達が第5評議会のスターピープル達にあらかじめ、私の指示を伝えてくれていたようです。

100名以上のスターピープル達が、第5評議会の創造主達を取り囲み調べています。

もちろん、闇の創造主によってコントロールチップを入れられたり闇のエネルギーに飲み込まれていないかを調べているのです。

しばらくすると、スターピープルの1人が、「TAKESHIさんありました。巨大な闇の種です。」

その言葉に多くの創造主とスターピープル達が振り向きました。

闇の種が発見された創造主は、第5評議会の中でも非常に優秀で探査能力に優れ、実行力に長けた創造主だったのです。

第5評議会の創造主のリーダーが、彼の中に発見された「闇の種」をすぐに調べ始めました。

それは、もう種というよりもだいが育って大きな闇のエネルギーを、創造主の中で満たしています。

「これは、一体どうしたことだ、このような事が或るなんて、」

第5評議会の創造主のリーダーは苦渋の顔をしています。

創造主の間に大きな動揺が広がります。

彼は、「暁の光の創造主」と呼ばれる創造主でした。

この「闇の種」によって正常な意識を失っていますが、その事に気づかれないように行動していたようです。

私は、第5評議会のスターピープルに、この「闇の種」を取り外すようお願いしました。

第5評議会の創造主達は、一体何故このような事が起きたのか、話し合い始めましたが、皆さん非常に困惑した表情をしています。

なぜなら、「流れを作る創造主」と「公正さを司る創造主」の異変を最初に気づいたのは、この「暁の光の創造主」だったからです。

「闇の種」が取り外され、しばらくすると「暁の光の創造主」が意識を取り戻したようです。

私は、彼に、昨日までの事を覚えているか、尋ねました。

彼は、私を不思議そうな顔で見えています。

「あなたは、創造主ではないようですが、ここで何をしていたらっしゃるのですか。」

彼は、一緒に活動している私の事も分からないようです。

そして第5評議会の創造主をはじめ、多くの創造主やスターピープルがそろっていることに大変驚いています。

「皆さん、一体どうしたのですか。

これほど多くの創造主やスターピープル達が勢ぞろいしているなんて、何か大変なことが起きたのですか。」

彼は何も覚えていないようです。

「「暁の光の創造主」よ、あなたは昨日まで何をしていたか、覚えていますか。」

「暁の光の創造主」はしばらく考え込んでいます。

「いえ、最近の事を考えると頭がぼ一つとして痛くなります。

私達に何か起こったのですか。」

私は、「暁の光の創造主」の質問には答えず、

「あなたが覚えている事で、一番、最後に起きた事はなんですか、私に教えてください。」と尋ねます。

「暁の光の創造主」はしばらく考え込んで答えます。

「そうですね、私は、「流れを作る創造主」と「公正さを司る創造主」からの報告がないので、不思議に思い、その事を第5評議会の創造主達に報告しました。

そして「光を生み出す創造主」と「力を生み出す創造主」は、彼等と仲が良かったので、彼等に「流れを作る創造主」と「公正さを司る創造主」の所在を聞こうと、彼等のもとに出かけました。

もし「流れを作る創造主」と「公正さを司る創造主」がいなければ、その役目を「光を生み出す創造主」と「力を生み出す創造主」に果たしてもらいたいと考えていたからです。

そして・・・」

「暁の光の創造主」はそこで、言葉を失いました。

評議会の創造主達が、かたずをのんで次の言葉をまっています。

「私は、「光を生み出す創造主」と「力を生み出す創造主」を訪ねていった時に、突然大きな闇のエネルギーが、私を取り囲みました。

そこからもう記憶はありません。」

創造主達が大きな失望の声を上げています。

「暁の光の創造主」が、この時大きな闇の力に捕らわれたことは明かです。

私は、「暁の光の創造主」の言葉を証明するために、「流れを作る創造主」にお願いして、「暁の光の創造主」の時間をさかのぼって、彼が言ったことが本当であるか、調べてもらう事にしました。

「流れを作る創造主」は、私達を「暁の光の創造主」が、「光を生み出す創造主」と「力を生み出す創造主」を訪ねていった時間に戻してくれました。

すると「暁の光の創造主」が、言った通り、2人の創造主を訪ねていったところで、「暁の光の創造主」大きな闇のエネルギーに捕らわれ気を失っています。

そして、彼が気を失っている間に、「光を生みだす創造主」が「暁の光の創造主」のスピリットの中に「闇の種」を入れているのです。

そして「光を生みだす創造主」は、その種に向かって大きな闇のエネルギーを送り込んでいます。

その光景を見た、「暁の光の創造主」は、自分に起こっている事が信じられないようでした。

しかし、「暁の光の創造主」の苦しみはまだ続きます。

「闇の種」を入れられ、闇の創造主となった「暁の光の創造主」は、「光を生みだす創造主」と「光を生みだす創造主」に命じられるまま、自分達が生み出した第4評議会の創造主を捕え、一瞬のうちに握りつぶしていったのです。

「暁の光の創造主」は、第5評議会の創造主ですので、第4評議会の創造主を生みだすことも、その光を奪う事も簡単にできます。

もちろん、本来は誰よりも叡智を持った創造主ですので、たとえ自分が作った創造主であったとしても、かつてに傷つけたり光を奪う事は絶対にしません。

しかも、誰よりも正義感が強い「暁の光の創造主」であればなおさらのことです。

「暁の光の創造主」の記憶を通して、彼が行なったことが写し出されると、多くの創造主達が悲鳴をあげていきます。

これほど悲惨な光景は、未だ見たことがありません。

そして誰よりも、「暁の光の創造主」が気を失うほど驚いています。

「こんな事はありません、私は一体何をしたんだ、闇の力によって、正気を失い、多くの創造主達の光を奪ってしまうなんて。」

彼は、自分の顔を手で覆い泣き崩れましたが、今回の事件は、彼が正気を失った上で行った事は明らかなのです。

しかし、たとえ闇の手に落ちたとはいえ、多くの創造主の生命の光を奪ったという事は、彼がどれほど償っても償いきれない大きな罪です。

このまま生きていても、彼は自分が犯した罪に、押しつぶされてしまうでしょう

私は、正直で正義感が強い「暁の光の創造主」がかわいそうで仕方がありません。

私は、第5評議会の創造主に言いました。

「私達は、「暁の光の創造主」の罪を許し、彼がこれ以上苦しまないように、光に帰してあげたほうが良いと思います。いかがでしょうか。」

リーダーも深く落胆した表情をして私を見ます。

「わかりました、彼がどのようにしたいか聞いてみましょう。」

リーダーは「暁の光の創造主」のもとに近づき、私の言葉を伝えます。

「暁の光の創造主」は、私を見てにっこりと笑い、「どうか、私を光に返してください。」とリーダーに懇願しています。

リーダーの合図で、第5評議会の創造主達が集まり「暁の光の創造主」を取り囲むように円を作ります。

創造主達が、彼に光を満ちし、祈りを捧げはじめると「暁の光の創造主」は光に包まれ消えていきました。

第4章 好奇心に負けて闇の宇宙を作った創造主

PART 1 光と闇のエネルギーを作り出す施設

第5評議会の創造主達は、第4評議会の創造主達にむかって、深く頭を下げました。

「今回の事件は、私達第5評議会の責任です。

本来ならば、第4評議会の創造主の行いをただし、彼等を導く立場にある創造主が、闇の力に惑わされたとはいえ、罪もない多くの創造主の光を奪ったことは、あるまじき行為です。

私達の長い歴史のなかでも消えることのない大きな過ちとなった事を皆さんにお詫びします。」

第4評議会の創造主の1人が、第5評議会の創造主のもとに駆け寄り、彼の悲しみに満ちた体を支えます。

「第5評議会の創造主様、何という事を言われるのですか、正直で正義に満ちた「暁の光の創造主」様を、闇の手にかけたのは、第4評議会の「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」です。

私達こそ、闇に落ちた彼等を野放しにし、導くことをしなかったために、このような悲劇を引き起こしてしまったのです。

今回は、私達の自業自得です。

第5評議会の創造主様の責任ではありません。」

第5評議会と第4評議会は、自分達の責任であることを譲ろうとしません。

「皆さん、どちらの評議会に責任があるかという事よりも、事件の真相をもっと深く調べて、何故このような事が起きたのかという事を突き止めなければ、「暁の光の創造主」も、また光を失った創造主達もかわいそうです。

そしてまた同じ事を起こしてしまいます。

さあ、次に進みましょう。」

創造主達は、私が言った言葉の意味がよくわからなかったようです。

「私が不思議に思うのは、何故ここまで闇の力が大きく成長したか、という事です。

本来ならば、闇も光も同じエネルギーです。

皆さん創造主は、闇のエネルギーに簡単に飲み込まれるはずがないのに、今まで私が見てきた世界では、光と闇を自分の中で統合し、適切に利用することができずにいとも簡単に多くの創造主が闇に落ちていったのです。それはなぜですか、光に比べて闇の力がこれほどまでに強いのはなぜですか。」

創造主達が、茫然自失になっている姿を横目に、私はここ数10分の間に、私の後頭部に押し寄せてきた刺すような痛みを起こしているエネルギーを調べることにしました。

ピカフラッシュを呼び出し、このエネルギーの発信源を探し出させます。

するといくつもトンネルのような光の渦を通り抜け、ひとつの施設にたどり着きます。

そこには3人の創造主が働いているようです。

私はこの施設の事を創造主達に尋ねると、第5評議会の創造主達が答えます。

「これは、創造主の計画によって宇宙が生まれてくるときに、光と闇の適切な配分に従って、宇宙に光と闇のエネルギーを流すためにある施設です。

この宇宙は光ばかりの宇宙ですと、全てが調和され問題がおこりません。

するとその世界で生きる創造主やスターピープル、そして星に生きる種族達にとっては平和ですが学びが少ない世界になってしまいます。

そのために、闇のエネルギーを少し混ぜて、いくつかの混乱や争いを起こします。

すると皆さんにとっても程よい学びが行なえる世界ができあがるのです。」

私が、この施設の説明を第5評議会の創造主から聞いている間に、2、3人の第5評議会の創造主が、この施設で働く創造主と話をしたり、施設の記録を調べています。

そして1人の創造主が、手に施設の記録を持って、第5評議会のリーダーに見せています。

その記録を見た創造主のリーダーの顔がみるみる青ざめていきます。

「これはありえないことだ。」とリーダーがつぶやきます。

私は、一体何が起きたのですかと、リーダーに尋ねます。

「TAKESHIさん、これは信じられないことですが、皆さんが属する宇宙には、とても大きな闇のエネルギーが流れ込んでいるのです。

我々は、通常、ここまで大きな闇のエネルギーを、宇宙に流す事はないのですが、皆さんの宇宙では、光のエネルギーよりも、はるかに闇のエネルギーの方が多く流れ込んでおり、光と闇のバランスが崩れているのです。」

「なぜそのようなことが起きたのですか。」と私は尋ねました。

「しばらくお待ちください。」とリーダーは言い残して、この施設を管理する3人の創造主を呼び、話を聴いています。

私はその間に、この施設を見ていますが、とても明るい黄金色の光や落ち着いた漆黒の光などがいくつも重なり合って輝いているように見えます。

おそらく、様々な光りを操りながら、その宇宙に適した光を作り出し、創造主達に供給しているのでしょう。第5評議会の創造主達は、創造された宇宙を見回り管理するだけでなく、宇宙の創造に必要なエネルギーも供給するようです。

第5評議会の創造主が、私のもとに戻ってきました。

「今、この施設を担当する創造主に話を聴いたところ、皆さんが属する宇宙の責任者は、現在のところ、「光を生み出す創造主」と「力を生み出す創造主」になっておりました。

そして、彼等がこの施設にやってきて、宇宙を新たに作り直す必要があるからと言って、新しいエネルギーの比率を提案してきました。」

「その比率が問題だったのですか。」

「そうです。我々は、光と闇のエネルギーがバランスよく配合されることを常に考えておりますが、「光を生み出す創造主」と「力を生み出す創造主」が提案した比率は、闇のエネルギーが遥に多い比率となっておりますので、3人の創造主達は、それを認めるべきか協議を行いました。」

「もしかして、その比率を認めたのですか。」

「そのようです。」

通常では、絶対に認められるはずがない比率ですし、これだけ光よりも闇のエネルギーが多いと、宇宙は大きな混乱に巻き込まれるという事が分かっているのに、彼等はこの比率を認めてしまったようです。

「光を生み出す創造主」達から、この宇宙で活動する多くの創造主達やスターピープルが新たな比率を望んでいるからと言われて、彼等は認めてしまったようです。

これは、私達第5評議会の大きな過ちです。」

第5評議会の創造主のリーダーは、同じ第5評議会の創造主達にも事情を説明しています。

第5評議会の創造主達が動揺している様子が伝わってきます。

「私達が、皆さんの宇宙に規定以上の闇のエネルギーを流してしまったために、皆さんの宇宙では、光よりも闇の力の方が圧倒的に大きくなってしまいました。」

「そうするとどのようなことが起こるのですか。」

「皆さんの宇宙で、多くの創造主が闇のエネルギーに飲み込まれ、闇の創造主になったり、スターピープルになるはずの者達が、闇の力に利用されてダークピープルになってしまいました。それもこの闇のエネルギーの方が多く流れ込んでしまったせいなのです。」

「私達は、今までたくさんのスターピープル達と共に、ダークピープルと戦ってきました。

そして闇に落ちた創造主達から何回もサイキックアタックをうけながらも、彼等を光に返してきたのですが、それも、闇のエネルギーが、私達の宇宙にたくさん流れ込んでいたからですか。」

「そうです、皆さんのアセンションが難航しているのも、私達の「暁の光の創造主」が、第4評議会の創造主からコントロールされてしまったのも、全て、皆さんの宇宙に、光よりも多くの闇のエネルギーが流れ込んでしまったからなのです。

皆さんの宇宙では、光よりも闇の方が力を持ってしまいましたので、たとえ下の評議会の創造主であったとしても、闇の力を使う事により、自分よりも力が強い創造主を、コントロールできるようになってしまったのです。」

「そのような事があるのですか。」と私は、不安気に尋ねます。

「そのような事が起こってしまったのです。」と創造主のリーダーが答えます。

「私達は、全ての宇宙が適切に運営されているかどうかを調べるのが役目です。

全ての宇宙がより良い状態で存在する為には、光と闇のエネルギーが程よく調和されていなければなりません。行き過ぎた光も行き過ぎた闇も、宇宙のバランスを壊してしまいます。

その事を防ぐ為に、光と闇のバランスは厳しく決められていたのですが、今回はそのバランスが壊されてしまいました。

これは、私達、第5評議会の責任です。

私達が第6評議会の創造主様から頂いた光と闇のエネルギーを適切に扱えなかったのは、私達がまだ未熟であったためです。

私達は、自分達に課せられた責任を果たすことができず、創造主様から与えられた試練に打ち勝つ事ができませんでした。

私達は、本当に価値にない創造主です。」

第5評議会のリーダーは自分達が犯した過ちによって自分達を責めさいなみパニックに陥っているようです。

PART 2 「エネルギー分配の創造主」をコントロールした者

私は、第5評議会のスターピープル達に頼んで、何故「エネルギーを分配する創造主」が規定以上の闇のエネルギーを、「光を生み出す創造主」と「力を生み出す創造主」達に分け与えてしまったのか、調べてもらいました。

何か、隠された理由があるように思えるからです。

しばらくすると、第5評議会のスターピープルが戻ってきました。

「TAKESHIさん、この施設で働いている「エネルギー分配の創造主」たちに、「光を生み出す創造主」と「力を生み出す創造主」によるエネルギー支配の痕跡が見られました。

「エネルギー分配の創造主」達は、彼等によって意識をコントロールされ、誤った光と闇のエネルギーの分配を認めてしまったようです。」

私は、このことを不思議に思いました。

つまり「光を生み出す創造主」と「力を生み出す創造主」が、第5評議会の「エネルギー分配の創造主」達に交渉したのは、闇のエネルギーの比率が高い宇宙を創る前ですから、2人の創造主達の力は、さほど強くないはずです。

しかしながら、非常に厳格なはずの「エネルギー分配の創造主」達の意識をコントロールして、非常識なエネルギーの分配を行うように、彼等をコントロールする為には、彼ら3人よりもはるかに大きな力を持っていないければなりません。

しかし、彼等は、その時点では、それほどの力を持っていなかったはずです。

すると「エネルギー分配の創造主」達を超える力を持つ創造主が「エネルギー分配の創造主」の意識をコントロールした可能性があります。

私は、その事を第5評議会のスターピープルにつたえて再度調べてもらう事にしました。

第5評議会のスターピープルも、私がそのように話をすると、私の意図が分かったようです。

「お任せください。」と言って再度「エネルギー分配の創造主」達を調べ始めました。

私は、第5評議会の創造主のリーダーが、先ほど第6評議会の創造主から与えられた試練に打ち勝つ事ができなかったと、嘆いていた言葉が気になったのです。

もはやこのレベルの創造主にはないと思いますが、下部の創造主には「試練を与える。」という言葉で、相手の創造主を傷付け、創造主として活動できないように打ちのめしてしまう創造主が良くいるのです。

私も、その様な創造主から何度痛い目にあった事が、私は第5評議会を生み出した第6評議会の事を調べなければと思っているのです。

先ほどのスターピープルが戻ってきました。

「TAKESHIさん、やはりあなたの推測通り、もう一つエネルギーが見つかりました。

それは、第5評議会の創造主よりは大きいエネルギーなのですが、その痕跡は消されていて後を追う事はできないようです。」

私達は、そのエネルギーがどこから来ているのか調べる必要があります。

私は、第6評議会から与えられた試練に対して、第5評議会の創造主に話を聴こうと思いましたが、リーダーは、混乱してしまい、自分をずっと攻め続けています。

私は仕方なく第6評議会の創造主に、今まで起きたことを話し、第5評議会に与えられた試練について聞くために、第6評議会の創造主に、私達の前に姿を現してもらうようお願いしました。

PART 3 好奇心で深い闇の宇宙を作らせた創造主

しばらくすると、私の代わりにビジョンを見てくれる美樹さんが大きな光に包まれ意識が遠くなります。今までよりも、さらに高い世界へ行く時は、私達はよくこのような事を体験します。美樹さんの遠くなる意識の中で、第6評議会の創造主の姿がおぼろげながら見えてきます。

そして静かに第6評議会の創造主の声が聞こえてきました。

「TAKESHIさん、美樹さん、皆さんにお会いすることができてうれしく思います。」

「偉大なる創造主よ、私達も皆さんにお会いできて光栄に思っております。

今日は、創造主様に大切なことをお聞きしたくてお呼びいたしました。」

「そうでしたか、あなた方が疑問に思っていることがあれば、なんでもお聞きください。」

「偉大な創造主よ、大変ありがとうございます。」

実は、第5評議会の創造主達が、ひとつの宇宙に対して非常に闇が多いエネルギーの分配を行ってしまいました。

その結果、その宇宙では、とても闇の力が大きくなってしまい、闇に落ちた創造主が他の創造主を傷付け光を奪い取ることが起きたり、ダークピープルが力をつけ、闇の創造主達と共に共謀して、多くの人々やスターピープル達のスピリットを奪い去ることが頻繁に起こるようになりました。

第5評議会の創造主達は、これは自分達が犯した過ちであると嘆いておりますが、このことに関して第6評議会の創造主様は何か心当たりはありませんでしょうか。」

第6評議会の創造主は、ゆったりとした口調で答えます。

「私達は、光のエネルギーも闇のエネルギーもただ第5評議会の創造主達にお渡ししているだけです。

その事に対して良くも悪くも判断しません。

第5評議会の創造主が、それを適切に扱えなかったというのであれば、それは彼らの責任でしょう。」

「もちろんそうです。

しかし創造主の皆様は、良く「試練を与える」という事で、非常に大きな障害を与え、創造主達はその障害を越えることができずに挫折してしまう事がよくあります。

皆さんが、もし第5評議会の創造主に試練を与えているのであれば、その事を考えていただきたいのですが、いかがでしょうか。」

「TAKESHIさん、私達は、第5評議会の創造主に対して試練を与えているとは考えておりません。

彼等は、自分達の叡智に基づき自由に行動しておりますし、私達もそのことを信頼しております。」

「そうですか、わかりました。ありがとうございます。」

出来ましたら、第6評議会の創造主の皆さんに集まって頂き、美樹さんの記憶を通して、地球の現実世界で何が起きているかご覧になって頂けませんか。」

「わかりました。

私達、第6評議会の創造主からは地球の物理世界は遥かに遠いものです。

私達は、皆さんの世界を見る事ができませんので、見せていただけるなら喜んで見ましょう。」

そういと第6評議会の創造主は、20人ほどが集まり、美樹さんの記憶にアクセスして、地球の物理世界を見始めました。

私達にとって、第6評議会の創造主達は、全く未知の存在ですので、彼等の事を調べる為には、彼等にも集まってもらわなければならないのです。

私は美樹さんの記憶を見てもらいたいとお願いして、創造主達に集まってもらったのですが、本当のところは、「エネルギー分配の創造主」達のところに残されたエネルギーと合致する創造主を見つけたかったのです。

第6評議会の創造主が、美樹さんの記憶を通して地球の現実世界の様子を見始めた頃、私は第5評議会のスターピープルに合図を送りました。

この第6評議会の創造主の中に「エネルギー分配の創造主」達に対して意識のコントロールを行なった創造主がいないか、調べてもらう為です。

第5評議会のスターピープルは、さすがに自分だけでは難しいと感じたようです。

第6評議会の中でも仲が良いスターピープルに相談して助けを求めていたようです。

第5評議会のスターピープルに変わって第6評議会のスターピープルが、何食わぬ顔で創造主達のエネルギーを調べています。

やがて、スターピープルから合図が来ました。

どうやら、エネルギーが合致する創造主がいたようです。

私は、第6評議会の創造主達が、美樹さんの記憶を見終わる頃を見計らって、創造主達に声をかけます。

「創造主の皆様、いかがでしたでしょうか、地球の物理世界だけでなく、私達の宇宙の様々な星でも同じような問題が起きていますし、ダークピープルや闇の創造主達はスターピープルや光の創造主達を凌駕するような活動を行っています。

それも、第5評議会の「エネルギー分配の創造主」達が、私達の宇宙に通常よりもはるかに大きな闇のエネルギーを流してしまったからなのです。」

第6評議会の創造主は、私の言葉にうなずいています。

「しかしどうも不思議なことがあるのです。

本来ならば、第5評議会の「エネルギー分配の創造主」達は、決してこのような配分をしないのですが、その時に限って、闇が多いエネルギー比率の分配を行ってしまいました。

たとえ、第4評議会の創造主から頼まれたとはいえ、あり得ないことだと第5評議会の創造主のリーダーも言っていました。

私達が、不思議に思って調べると、「エネルギー分配の創造主」達は、第4評議会の創造主達から意識をコントロールされた形跡がありました。」

第5評議会や第4評議会の創造主たちが、自分達を生みだしてくれた第6評議会の創造主を相手に、私が何を言い始めたのかと不審に思い、皆さん集まってきました。

「しかし、第5評議会の創造主である「エネルギー分配の創造主」が第4評議会の創造主から意識をコントロールされるというもおかしい話です。

私達が良く調べると、隠されてはいたのですが、もう一つ大きなエネルギーの痕跡が、「エネルギー分配の創造主」達に残っていたのです。」

第6評議会の創造主は、私が何を言いたいのか考えているようです。

「それでは TAKESHI さん、第5評議会の創造主を上回る力を持った創造主が、その事に関わっていると、あなたは考えているのですか。」

「そうです、実は「エネルギー分配の創造主」のもとに残されたエネルギーと似たようなエネルギーを持った創造主が、この中にいるのではないかと考えているのですが、ここにいらっしゃる第6評議会の創造主の皆さんは、心当たりはありませんでしょうか。」

ほとんどの創造主が、自分達には関わりがないという顔をしています。

私が一人の創造主をじっと見つめます。

先ほど第6評議会のスターピープルが、エネルギーが同じであると、教えてくれた創造主です。

私から見つめられた創造主は、隠すことができないと思ったのか、そわそわした様子で答えます。

「実は、私がこのことに関わっています。」

第6評議会の創造主達だけでなく全ての創造主の視線が、この創造主に集まります。

「私が、「エネルギー分配の創造主」にエネルギーを送り、第4評議会の創造主の希望どおりの光の分配を行わせました。」

第6評議会の創造主は驚いて、その創造主に尋ねます。

「あなたは何故、第5評議会の創造主達の仕事に介入したのですか。」

「私は、創造された宇宙が、いつも同じエネルギーで作られる為に、とても単調であると思ったのです。中には、他の宇宙と異なる奇抜な宇宙があってもよいと考えた為に、第4評議会の「光を生み出す創造主」と「力を生み出す創造主」が、「エネルギー分配の創造主」達に間が多いエネルギー配分をお願いしたときに、彼等が作る宇宙はどのような宇宙だろうと好奇心を持ちました。間のエネルギーが、たくさんある宇宙とはどんな宇宙だろうと、私は、その宇宙の変化を見てみたいと思ったのです。

そのために、「エネルギー分配の創造主」達の意識をコントロールして、彼等の比率に従ってエネルギーを送らせたのです。」

第5評議会の創造主達は、「エネルギー分配の創造主」達が、第6評議会の創造主に意識をコントロールされて、間が多いエネルギー配分を行ったと聞いて驚いています。

そうすると、今回の問題は、第5評議会の創造主達が未熟であったために起こったのではなく、第6評議会の創造主の好奇心によって、わざと間が多い宇宙が生み出されたという事になります。

たった1人の創造主の好奇心のために、第4評議会の創造主や美樹さんにつながる創造主達の命が奪われ、宇宙が混乱に満ちたものとなったのです。

そして第3評議会の創造主が、その間のエネルギーによって強力な間の創造主となり、私達の宇宙だけでなく多くの宇宙を奪い取るための計画を立て準備を行っていました。

その計画は、実行こそされませんでした。私達の宇宙だけでなく多くの宇宙は崩壊寸前でした。

第2評議会では、創造主達の大戦争が起こりましたし、そのエネルギーは時を超えて、第2評議会の創造主のリーダー達を混乱させ、アセンションの大きな妨げとなりました。

第1評議会の創造主達は、圧倒的に間の力を得ている創造主達の方が優勢でした。

多くの創造主やスターピープル達が闇に飲み込まれ、健全な成長をすることができず、その多くの者達が闇に落ちていきました。

物理世界も、闇が深く、多くの戦争や殺戮がいまだ行われています。
多くの光ある者達が、そのスピリットと体を傷付けられています。

これが、一人の創造主が、好奇心によって、闇のエネルギーを多く含んだ宇宙を生みだした結果なのです。
第6評議会の創造主達も、彼がしたことを創造主としてあるまじき行為であったと、彼を責めています。
もちろん彼自身、美樹さんの記憶を見る中で、自分が行なったことがどれほど大きな影響と罪を作りあげてしまったのか理解していたようですが、それを償う事は、彼にはできないでしょう。

好奇心に負けて闇が多い世界を作り出した創造主は、第5評議会の創造主達だけでなく他の評議会の創造主に対しても深く謝罪しています。

今回創造主の世界で起きたことは、今迄に例がないことです。

特に第5評議会の創造主や第6評議会の創造主の間では、問題が起きるという事さえもありえない事であったにも関わらず、今回事件が起きたことは、創造主達にとって大きな学びとなったようです。

PART 4 闇の後片付け

第6評議会の判断により、「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」によって光と闇のエネルギーの配分が狂わされていた私達の宇宙は、光と闇のエネルギーの分配比率が適切な物に変更されていきました。
その光は徐々に、第5評議会から第4評議会そして第3評議会、第2、第1評議会のもとに降り、やがて私達が住む物理的な宇宙を潤していきます。

もちろん、適正な比率のエネルギーが私達の地球を潤すためには、しばらく時間がかかりそうですが、地球の各次元の分離を伴って、地球が大きく変化する時は確実にやってくるものと思われれます。

その様な時、私達の地球で悪あがきをしていたダークピープル達からのサイキックアタックが、再び起こり始めました。

それを最初に気づいたのは美樹さんでした。

私達に向かってくるたくさんの怒りの感情のような物が見えていたようです。

私はすぐに、グルナレッドとロッド星人を呼び出し、状況を聞きました。

すると50%以下の世界にいるダークピープル達が、闇のエネルギーの供給が止められることになったことに大きな怒りを持って、私達に攻撃のエネルギーを送っている事が明らかになりました。

しかし、彼等はもうすでに、私達と切り離された世界の存在達ですので、私達に直接攻撃することはできません。

ただ、私達もこのダークピープル達を放っておくことも出来ませんので、彼等と闇のエネルギーの関係を調べる為に、あえて彼等のエネルギーがどこから来ているか調べることにしました。

彼等は、第5評議会から送られてくる闇のエネルギーと直接つながっているようでしたので、彼等のエネルギーの源を調べることで、地球にまだ残っている闇のエネルギーの処理ができるかもしれないと考えたからです。

私は、ダークピープルの裏にあるエネルギーのラインに沿ってピカフラシュを走らせました。するとピカフラシュは、様々な場所を経由して地球の大地の中に入って行きます。そして地球のコアを抜け、大きな赤黒いエネルギーの塊があるような場所へとたどり着きました。光のエネルギーとは異なり、重苦しい圧迫感があります。本来、光と闇は、お互いが共に働きかけながら様々なものを生みだしていきます。光も闇も、宇宙の創造にとっては必要な物ですが、この闇のエネルギーは、このエネルギーに関わった創造主達の悪意ある意識によって大きく変質させられています。

まるで愛や調和と正反対のエネルギーであり、光あるものを呑み込もうとする貪欲な意識を、このエネルギーから感じます。おそらく多くの創造主やスターピープル達が、この貪欲な闇のエネルギーに飲み込まれることによって、正常な意識を失い、支配欲と攻撃欲に満ちた闇の創造主やダークピープルに堕ちていったのでしょう。

私は、第6評議会の「好奇心の創造主」をこの場所に呼び寄せ、この変質した闇のエネルギーの処理を行なうように言いました。

「好奇心の創造主」は、これほどまでに変容した闇のエネルギーを見て、物質世界の恐ろしさをかみしめているようです。

創造主は、祈りを込めて、この地球に蓄えられた闇のエネルギーを浄化して無に帰しています。

この地球のコアにため込まれたエネルギーは、本来創造にとって必要なエネルギーであったにもかかわらず、強欲な闇の力に変容され、ダークピープル達の生命力の源とされていたようです。

第6評議会によって、過剰な闇のエネルギーの供給が中止され、闇のエネルギーをこのような貪欲な闇に変える創造主がいなくなったせいで、ダークピープル達が必要とするエネルギーが少なくなってきたのでしょう。彼等はその事を怒って、私達を攻撃したようです。

「好奇心の創造主」は、その様な小さい所まで、自分が行なったことが影響を与えていることに大変驚いています。

第5章 生まれ変わる「愛の創造主」

PART 1 生まれ変わる「愛の創造主」

「好奇心の創造主」によって私達の宇宙は闇が多いものとなりましたが、創造主達が、光と闇の比率を正しい物に変えてくれたおかげで、私達の宇宙は適正なエネルギーへと変換が始まりました。そのエネルギーは、第4評議会から順次第1評議会まで降りてきた所です。そして私達が住む物理世界へも新たなエネルギーは流れ込んできています。

スターピープル達は、2016年の12月末が地球のアセンションの期限となっていますので、今できる限りのメンバー達を集めて最終的な仕事を行っています。人々の意識や愛の度数が、今回のエネルギーの修正によってまた変化していきますので、新たに愛の度数が上がった人たちを探し出し、アセンションしていく地球の方に振り分けていくのです。

もちろん、スターピープル達は、皆さんの意思やスピリットの意向を無視することはできませんが、今迄、多くの闇によって個人ではどうすることも出来ないほどの状態に置かれていましたので、それを修正しながら皆さんが行くべき世界を見極めていきます。しかし、皆さんのスピリットはとて光が多い世界にいるのに、肉体の意識がついてきていないという事がほとんどですので、スピリットの意識と肉体の意識が一つになるように働きかけているようです。そうしなければ、皆さんがアセンションする時に、肉体を置いてスピリットだけがアセンションすることになり、今回のアセンションの目的を果たすことができなくなります。

スターピープル達は、皆さんの肉体の意識を高める為に、皆さんが持つ感情のエネルギーを浄化していきます。怒りや憎しみ、悲しみや恐れなどの感情は、皆さんの肉体の意識をコントロールして、自分自身を光が少ない世界へと導いてしまうからです。常に安らいだ感情や喜びに満ち溢れた感情を持つという事は肉体の意識を良い状態に保つ大切な要素です。そのために、彼等は、光51%以上の世界に向かう皆さん1人1人を見えない所で支えているのです。

8日の深夜、私達は、体にずっしりと重たいエネルギーを感じました。私達の肉体にある物理世界にはいる為のゲートを使用して、多くのスターピープル達や創造主が仕事をしているので、何か大きな変化が起きたら、そのエネルギーは私達の体にすぐ反映されてきます。今回のエネルギーは、とても大きく重だるいエネルギーでした。

私達はすぐにグルナレッドとロッド星人を呼び出し、何が起きているのか説明してもらいます。「TAKESHIさん、私達が人々の感情を処理していたら、とてつもなく大きな感情のエネルギーにぶつかってしまいました。私達は、このエネルギーは、人々の感情の集合意識だと思っていましたが少し違うようです。」

私達はすぐにスピリットとなりその場所に向かいました。

確かに今迄の感情の集合意識とは異なり、とても巨大なエネルギーを持っています。そしてこのエネルギー体から、他の世界に向かっていくつものエネルギーラインがつながっています。しかし、ここは光51%以上の世界ですから、それほど大きな闇のエネルギーが残っているとは思えない場所です。

「確かに大きなエネルギーですね、しかもいくつもの世界にむかってエネルギーのラインがつながっています。これはただの感情のエネルギーではなさそうですので、創造主達にも手伝ってもらいましょう。

第5評議会、第4評議会の創造主達、どうかこのエネルギーを処理してください。」

創造主達がやってきて、まるでステーキを切り分けるように、周りからどす黒いエネルギーを切り取っていきます。

しかし、いくら切り取っても、その中央からあふれるように闇のエネルギーが流れ出してくるのです。

そのエネルギーに、第4評議会の創造主達が、何か気づいたようです。

創造主の1人が、仲間を呼び、このエネルギーを取り囲みます。

そして、創造主達が祈りと共に光を送ると、どす黒いエネルギーの塊が、周りから溶けていきます。

しばらくすると、その中から何かが浮かび上がってきます。

浮かび上がってきた創造主を見て、第4評議会の創造主が驚いています。

闇のエネルギーの中に閉じ込められていた創造主は、第6評議会から第1評議会までの全ての次元と世界に存在することができる「愛の創造主」だったのです。

しかし、今私達の前にいる「愛の創造主」はまるで悪臭漂う泥の中に閉じ込められて、意識も混濁し、大切な愛のエネルギーは情念のエネルギーに変容している闇の創造主です。

彼女のエネルギーは「愛」とは正反対の情欲や嫉妬といったエネルギーに変わり、多くの闇の世界とつながっていました。

そのエネルギーに気づいたのか、第5評議会、第6評議会の創造主達も「愛の創造主」のもとに現われてきました。

第5評議会の創造主が、闇にまみれ、その純粋なエネルギーも大きく変容した創造主を見て悲しんでいます。

「偉大なる愛の創造主よ、あなたが私達の宇宙から姿を消して長い年月が経ちましたが、まさかこのような姿で現われるとは思っていませんでした。

あなたが、その姿を消し、この宇宙に愛のエネルギーが満ち溢れなくなった事で、この宇宙は光が消えたキャンドルのように静まり返ってしまいました。

「宇宙の根源の愛」も、創造主やスターピープルから少しずつ遠のき、この宇宙は空虚なものとなってしまいました。

どうか今一度、あなたの愛のエネルギーを、全ての宇宙に満たしてください。」

多くの創造主が、「愛の創造主」を取り囲み祈りをささげています。

彼等にとって、この「愛の創造主」まさに自分達を生みだした聖母そのものだったのです。

「愛の創造主」と呼ばれる創造主は、第4評議会の創造主が作り上げた宇宙に、愛のエネルギーを注ぎ込む働きも行っていました。

全ての宇宙には、光と闇のエネルギーが必要ですが、もっと大切なエネルギーは「愛」のエネルギーです。

「宇宙の根源の愛」によって全ての生命、全ての星々は、生命を宿し輝く事が出来るのですが、「宇宙の根源の愛」と各宇宙をつなぎ、愛のエネルギーを送り込み事がこの「愛の創造主」の役目だったようです。

彼女は、愛のエネルギーと共に、どのような宇宙の次元にも入り込むことができました。
それは大きな宇宙そのものであっても、一人一人の心の中であつたとしても、相手に合わせて自由自在に愛を送ることができる稀有な創造主だったので。

この「愛の創造主」は、第4評議会では、「流れを作る創造主」や「公正さ創造主」と共に、宇宙の創造のサポートをしていましたので、私は最初、第4評議会の創造主達の光を奪った創造主によって、「愛の創造主」もここに閉じ込められたのかと思いましたが違うようです。

美樹さんの心の中に、彼女の弱弱しい声が届いてきました。

「どうか、「愛の創造主」の役目を果たすことができなくなった私を許してください。
皆さんの宇宙はとても闇が多く、愛のエネルギーが満ちる事のない世界となってしまいました。
私は、この世界で傷つき苦しんでいる人達を見るたびに、私達の愛を送り助けてあげたいと思いました。
私はできうる限りの愛を送る事を行っていましたが、私はあまりにも物理世界にこだわり過ぎたようです。
私の力は、物理世界では、その働きを制限されてしまい、この世界に満ち溢れていた闇のエネルギーに押しつぶされそうになりました。
私は、それでもこの闇の多い宇宙に立ち足ばかり、愛のエネルギーで宇宙を満たそうとしたのですが、いつしか私自身が闇のエネルギーに捕らわれ、このような宇宙を作った創造主や力のない私自身に対して怒りを持ち、憎むようになってしまったのです。
そしてその結果、私自身が怒りや憎しみのエネルギーを生み出す存在になってしまいました。」

私は、第6評議会の創造主に対して「愛の創造主」を取り囲む闇のエネルギーを浄化し、彼女自身をクリアリングしてくれるように頼みました。

「TAKESHIさん、もちろんです。
彼女は私達の宇宙にとっては、無くてはならない存在です。
皆で力をあわせてできる限りの事はいたしましょう。」

創造主達が力を合わせて「愛の創造主」に光を送っていますが、彼女自身の内側から光が生まれ出てくることはありません。

「皆さん、本当にありがとうございます。
私は、この宇宙に愛をもたらすのではなく怒りや憎しみをもたらす存在になってしまったようです。
私の中から「宇宙の愛」が輝き出すことはないでしょう。
わたしはもう光に帰りたと思います。
このままでは、皆さんにご迷惑をかけるばかりですから、」

「愛の創造主」は自分に残された最後の良心で私達に訴えかけてきました。
もし彼女が、最後の良心まで失ってしまったら、全ての宇宙から愛を奪い去り、怒りと憎しみのエネルギーで全ての人々を覆い尽くすような存在になってしまう事でしょう。
そうになってしまえば、彼女自身が一番苦しむことでしょう、いえ、苦しむ気持ちさえも失うかもしれません。
創造主達は、祈りを込めて「愛の創造主」を光に返しています。
全ての評議会の創造主が、悲しみの涙を浮かべています。

「愛の創造主」が光に帰ると、そこには大きな闇のエネルギーが残りましたので、創造主達はそのエネルギーを浄化しています。

私は、第6評議会の創造主に新たに「愛の創造主」を作ってくれるか尋ねました。

「TAKESHIさん、もちろん新たな「愛の創造主」を作りましょう。

皆さんの宇宙だけでなく全ての宇宙においても、「愛の創造主」は必要不可欠です。

そして彼女が、このような思いをしなくて済むような宇宙を、皆さんと一緒に作りましょう。」

私達は、あらたな「愛の創造主」が生まれることを夢見て眠りにはいる事にしました。

そして翌日には、新たな「愛の創造主」と出会う事になるのです。

PART 2 「区別を行う創造主」の再生

私達は翌日目覚めると、昨夜の「愛の創造主」の哀しい姿を思い出してため息をついています。

そして、第5評議会の創造主から「愛の創造主」も、やはり第5評議会の闇に操られた創造主から、その能力を奪い取られ、自分の力を十分に発揮することができずに、闇に落ちていったのだという話を聴かされました。私達の宇宙はこれほどまでに闇が深く、素晴らしい創造主達でさえも、闇の中でその輝きを失ってしまっている、一体これほどの闇のエネルギーが、この宇宙にどうして存在しているのだろうか、少し落胆していました。

その様な時に、ロッド星人から連絡が入りました。

「TAKESHIさん、また同じような大きな闇のエネルギーが見つかりました。

光49%の世界から光53%の世界にまたがって同じようなエネルギーがいくつか見つかりましたので、これも第4評議会の創造主ではないかと思います。」

私達はすぐにその場所に行くと、ロッド星人やグルナレッド、第4評議会の創造主達も集まっています。

第4評議会の創造主達は、いくつかの次元に分断されたエネルギーをひとつに集め、闇のエネルギーを溶かして言います。

すると、そこに現われてきたのは、闇のエネルギーに閉じ込められた創造主です。

私は、第4評議会の創造主にどのような状態か尋ねました。

「彼のスピリットは分断されて力を失っていましたが、眠りについていたような状態ですので、スピリット自体は闇のエネルギーに侵されていたわけではありません。

第5評議会の創造主にお願ひして、スピリットを統合すれば、また前のように創造主として活躍できるのではないかと思います。」

創造主が発見されたことを知って、第5評議会の創造主がやってきてくれました。

私とも非常に深い関係にある「陽の働きを持つ創造主」です。

「やはりこのような場所に捕らわれていたんですね。

「公正さを司る創造主」が見つかったので、この創造主も見つかるのではと期待しておりました。

すぐにスピリットを統合してもとに戻してあげましょう。」

第5評議会の創造主は、集められたスピリットの光を、さらに大きな光で包み祈っています。

この分断された光の一つ一つが、この創造主の能力や資質、パワー、行動力、愛などを表しています。

その様なエネルギーがすべて分断されることで、創造主は、統一性を失い、その思考や行動を全て止められてしまうのです。

第5評議会の創造主が、分断された光を手繰り寄せるように、再び織りなおしていきます。異なる色の光が、水を得た魚のように色鮮やかに輝きはじめ、再び躍動を始めます。分断されたスピリットの光は、やがて一つに絡み合っただきな光になっていきます。創造主の意思とパワーが戻ってきたようです。

私は、第4評議会の創造主にこの創造主の役目を聞きました。

第4評議会の創造主はすこし考えていたようですが思い出したようです。

「この創造主は、「区分けをする創造主」と呼ばれている創造主です。

第4評議会の創造主が作った宇宙がお互い交わったり干渉したりしないように、宇宙と宇宙の境界線を作る創造主です。

私達は様々な宇宙を作りますから、独自に発展して広がる宇宙もあります。

その様な時、彼が、一つ一つの宇宙の拡大する範囲を定めてくれます。

彼がいることで、私達は安心して宇宙を作れるのです。」

私は不思議に思いました。

以前、第4評議会の創造主にいなくなった創造主がいなか、調べてもらったとき、「愛の創造主」も「区分けをする創造主」もその名前が出てきませんでした。

これだけ大切な創造主なら、忘れるという事はないはずですが。

「TAKESHIさん、実はその事なんです、いなくなった創造主に対しては、私達の記憶がまるで抜き取られたように覚えていないのです。

いなくなった創造主が私達の目の前に現れて、初めて、この創造主がいなくなっていたと気づくのです。」

私は、第4評議会の創造主を分断して闇の世界に閉じ込められていたのは、第5評議会の闇にコントロールされた創造主ですが、未だ裏に他の創造主達が隠れているのではないかと疑いを持っています。

今回、発見されて目覚めさせられた創造主の意識が戻ってきたようです。

第5評議会の創造主が私に、この創造主達の事を教えてくださいました。

「第4評議会の創造主は、宇宙を創造することが仕事の創造主と彼の創造をサポートし管理する創造主達に分かれます。

「流れを作る創造主」「公正さを司る創造主」そして今回発見された「愛の創造主」「区分けをする創造主」達は、全て他の創造主達が宇宙を創造するときのお手伝いをするのですが、それと同時に第5評議会の創造主に、第4評議会の創造主がどのような宇宙を作っているのか、どのような考えで宇宙を運営しているのか、という事を報告してくれる大切な創造主なのです。

そのような立場の創造主が捉えられて封じられていますので、「光を生み出す創造主」と「力を生み出す創造主」、本気でこの宇宙を乗っ取るつもりだったのでしょね。」

この「区分けをする創造主」が戻ってきてくれたおかげで、ロッド星人やエレナさん達は助かりのようです。

「TAKESHIさん、この創造主がいなくなっていたので、私達が行なっている分離の仕事もうまく行かなかったようです。

一度分離したものが、再度くっついていたりしたのも、「区分けをする創造主」がいなくなったために、それらの分離を行なう創造主達の系列の力が弱くなっていた為です。

これで、地球の様々な世界の分離も進むと思います。」

第6章 人々の意識を操っていた可憐な創造主

PART 1 「光を生み出す創造主」と「力を生み出す創造主」の攻勢

9日の夜になると、このところ諏訪瀬島の地震が起きていることに胸騒ぎを感じます。

この場所は沖縄と鹿児島をつなぐ中間地点のような場所なのですが、3万年前、この辺りは香港から沖縄そして鹿児島とひとつながりの大陸があった場所で、かつてレムリア文明を受け継いだ最後の場所だと聞かされていました。

与那国島で発見された海中神殿も、レムリア文明の名残なのですが、新しい時代には、この場所が再度隆起する予定であるといわれているのです。

私はアシュタールのエレナさんと呼び、この地震について聞いてみました。

「実は、第1評議会の創造主の間で、この場所を隆起させ、レムリア文明の遺跡を現して、かつてこの地域に古代文明があったことを人々に知らせることで、人々の意識を目覚めさせようという動きがあるようです。その事について、現在第1評議会でも話し合われているようです。」

私は耳を疑いました。

この地域に、陸地を隆起させれば、大きな地震や津波が起きますので、南海トラフどころではない被害が起こります。

西日本や沖縄は、大津波と地震によって潰滅してしまう事は間違いありませんし、私達も無事ではいられないでしょう。

私達はすぐに、第1評議会に上がっていき、創造主達と話をすることにしました。

「皆さん、評議会の中で、かつてのレムリア文明が栄えた場所の隆起を行う計画があると聞きましたが本当ですか。」

第1評議会のリーダーである「光彩の創造主」が答えてくれます。

「それはまだ、評議会で決定したことはありません。

一部の創造主達はその様な意見を持っているので検討しているのです。」

「それでしたら、この計画はすぐに中止してください。

この場所が隆起すると、沖縄や九州、西日本は壊滅してしまい、この場所に住んでいる光を持った人達の生命も奪われてしまうでしょう。

もちろん私の家族もすべて海の底です。

これだけの大災害が起きたら、レムリアの遺跡どころではありません。」

創造主も顔を見合わせてうなずいています。

「皆さんは、レムリアの遺跡が発見されることで、レムリア時代の記憶が戻り、人々の意識が成長すると考えているかもしれませんが、まずその様なことは起こりません。

レムリアの遺跡が出ると同時に、多くの人々が津波や地震で死んだなら、レムリア大陸の沈没という悲惨な最期を思い出し、皆さんは古代文明やアセンションに関する記憶を避けるだけです。

私達が、これから行わなければならないのは、スターピープルと地球人が出会うために、地球人が冷静になってスターピープルに関する知識を学ぶことです。

そしてアセンションする為に、何が必要か、どうしたらよいかという事を知り実行することです。それ以外の余計なことは、ひとまず行わないようにしてください。」

私もスターピープル達も考えは同じです。

今でも、闇に落ちた創造主に振り回されて大変な思いをしているのに、これ以上面倒な事を増やすわけにはいきません。

しかし、誰がこのような計画を言い出したのか、そして現実に諏訪瀬島に地震が起きている事も気になります。ちょうどこの頃から、また私の後頭部に痛みが出ていますので、何かしら隠れている創造主がいるようです。ピカフラッシュに、私の後頭部の痛みを調べてもらおうと、やはり見つかりました。

「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」の分身が、また諏訪瀬島の海底に隠れていたのです。

彼等を捕えて、つながっているラインを調べると、なんと第1評議会の「審判の創造主」に突き当たりました。彼が、レムリア文明の隆起の提案をした超本人のようです。

「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」は、この場所を隆起させ、日本や私達に壊滅的なダメージを与えることを計画していたようです。

「審判の創造主」と彼につながる創造主達は、「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」の分身にだまされて行動していたようです。

PART 2 人々の意識の中に入り込んだ闇の創造主達

私達が、この調査を行っていた頃、ロッド星人から緊急連絡がはいりました。

「TAKESHI さん、光56%の世界で、ブラックホールが発見されましたのですぐに来てください。」

私達と第1評議会のスターピープル達も急いで現場に戻ります。

するとそこには、大きなブラックホールが、光56%の世界に入ってきた人達を呑み込もうとするように大きな口をあけているのです。

ロッド星人が困ったような顔をしています。

「以前調べた時には、このようなものはありませんでした。

もしかしたらどこかに隠されていたのかもしれませんが、光54%の世界につくられた防波堤とこのブラックホールは、どちらとも光に向かう人達を捕え、アセンションさせないために作られたものです。

どちらも、闇に落ちた「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」が関わっていることに間違いはないのですが、不思議です。」

「何が不思議なのですか。」と私はロッド星人に尋ねました。

「いえ、実は以前何もなかったところに、このようなブラックホールができていますので、グルナエルたちとも話し合ったのです。

「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」の本体は光に帰り、彼等の分身の多くは処理できているのですが、どこからか沸き起こってくるように現れてくるのです。

彼等よりも高次元の創造主達が、何度も光を送っているのです、たとえ分身と言えども存在できないはずなのです。」

グルナエルも困っているようです。

「私達も、彼等がどこから来るのか不思議に思い調べてみると、人々の潜在意識の中に、あの闇の創造主達のエネルギーが隠れていることが分かりました。

そして一人一人の意識の中に、自分達のエネルギーを送りこんでいるのです。

そうすると、愛の度数が高い人の意識の中にも彼等は入り込むことができます。

愛の度数が高い人は、当然光56%の世界に入ってきます。

そしてその人が光56%の世界に入ったところで、彼等の意識が、愛の度数が高い人の意識を乗っ取ってしまえば、「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」の分身として光の世界で悪事を働くことができます。

きっとその様な方法で、この世界に入り、ブラックホールを作ったのではないかと思われるのです。

私達はミスト星人やその他のスターピープルにもお願いして、人々の意識を調べました。

すると残念なことに、多くの人の意識から、「光を生みだす創造主」か「力を生みだす創造主」のどちらかのエネルギーが検出されたのです。」

第1評議会のスターピープル達が愕然としています。

アセンションのために、世界をいくつも分離して、その世界にあった人々を選び出すために愛の度数や叡智の度を図り、苦労しながら人々を分離しているのです。

其れにも関わらず、愛の度数が高い人の中に、闇に落ちた創造主のエネルギーが紛れ込んでいたとすると、全ての世界が、闇の創造主の思うままです。

これではアセンションが成功するはずありません。

この衝撃は、全ての創造主とスターピープルに広がりました。

皆さん愕然として力を失っていきます。

「それではロッド星人、グルナレッド、どのような対策をとればよいか教えてください。」

「先ず、すでに、光56%以上の世界に入った人々を徹底的に調べることです。

彼等のエネルギーは、やはり人間と異なりますので、見つけることはできると思います。

そして第4評議会以上の創造主の力をかりて除去する事が大切です。

新たにこの世界に入ろうとする人に関しては、私達が詳しくチェックを行い、闇の創造主達のエネルギーをとり除く作業を行ってから、光56%以上の世界に入れたいと思います。」

「しかしそのようなことを行っている間にも、彼等の意識を持った人々が、地球上で様々な争いや支配を行う事はありますか、」

「もちろん、それは現在でも起こっていると思います。

またアセンションにとっても大きな障害となるでしょうから、アセンションが大きく遅れることとなるでしょう。」

ロッド星人とグルナレッドは、私に大切な話があるといって誰もいない所に連れてきました。

「私達は、さらに上位のスターピープルとも相談したのですが、「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」には協力者やこの2人を操っていた創造主がいるのではないかと考えているのです。

2人の闇に落ちた創造主の本体はもういませんから、残るのは分身だけです。

しかし、分身がこれほど臨機応変に動ける訳ではないと私達は考えています。

とすれば、この2人の創造主を使って、宇宙を奪おうとする創造主が未だほかにもいる可能性があります。

その創造主を早く見つけないと、地球だけでなく宇宙は大変なことになってしまいます。」

「今回の問題を起こした張本人は、第6評議会の「好奇心の創造主」でしたが、彼の動機はあまりにも単純です。

現実的には、この宇宙の支配権をかけて大戦争が起きるところまで発展していました。

おそらく「好奇心の創造主」以上の動機を持っている創造主が隠れているのではないかと思うのです。

其れも「好奇心の創造主」を自由に操れる立場の創造主でしょう。」

私もロッド星人やグルナレッドの考えに賛同しないわけにはいきません。

私が、第7評議会の創造主に「好奇心の創造主」を見つけた処で、今回の探索は終了ですか、と尋ねた時に、彼は何も言いませんでした。

おそらくそれは終了していないという事を言いたかったのだと思います。

PART 3 闇のエネルギーに飲み込まれた「穏やかさの創造主」

私は、グルナレッド達と共に、隠れて第5評議会と第6評議会の創造主とスターピープルを呼びだしました。彼等には、私は初めて会いますが、私が来ることを待っていたようです。

スターピープル達は、地上で起きている事をグルナレッドやロッド星人から聞き、まだ隠された問題が有る事に気づいているようです。

「皆さん初めてお会いしますが、これからどうかよろしくお願いします。」

地球人的な挨拶に皆さんにこやかに対応してくれます。

「私達は非常に困った問題を抱えています。

おそらくグルナレッドから話は聞かれていると思いますが、この宇宙を闇におとしいれた本当の犯人を捜し出さなければ、地球はおろか多くの星々が壊滅してしまうのではないかと考えています。

しかし、おそらく犯人は、第6評議会か第5評議会の創造主の中にいると思います。

犯人を簡単に調べることはできませんが、何とか見つけだしたいと思いますので、皆さんには、それぞれの評議会の創造主を見張って頂きたいのですが、よろしく願いできませんか。」

第6評議会のスターピープルが答えます。

「TAKESHI さん達の考えはよくわかりました。

しかし問題が一つあります。

あなたの考えを実行する為には、創造主と同じラインのスターピープルが見張るのでは効果はありません。

同じ評議会では、創造主が中心でスターピープルはあくまでも創造主に仕える立場になります。

今回のように、重要な問題を抱えている場合、第6評議会の創造主を見張るのは、私達ではできませんので、第7評議会のスターピープルにお願いしたらどうでしょうか。

私達、第6評議会のスターピープルは、第5評議会の創造主を見張りますし、第5評議会のスターピープルは、第4評議会の創造主を見張ります。」

第6評議会のスターピープルは、ロッド星人と同じ系列のスターピープルのようなのです。

彼がいう事ももっともですので、私は、第7評議会のスターピープルにお願いして助けてもらう事にしました。

第7評議会のスターピープルも降りてきてくれました。

私達は非常に正義感が強いスターピープル達を仲間にして、この間に満ちた宇宙を作り出した創造主を見つけ出すことにしました。

次に私は、私のスピリットと関係が深い第5評議会と第6評議会の創造主に来てもらいました。

彼等は、私の大元となる第7評議会の創造主から生み出された創造主達です。

もちろん、私も彼らの一部をスピリットの中に持っていますのでもっとも信頼できる創造主達です。

私達の計画では、彼等の評議会に属する創造主を捕まえることとなりますので、やはり彼等の助けは必要です。

第5評議会の創造主は「陽の働きを持つ創造主」、第6評議会の創造主は「全ての創造主の働きを持つ創造主」という名前です。

「偉大なる創造主達よ、地球の混乱はおそらく皆さんの想像を超えたものとなってきました。

すでに光に返ったはずの「光を生み出す創造主」と「力を生み出す創造主」の意識が、地球の人々の潜在意識をとおして、多くの人々の意識の中に流れ込んでいます。

アセンションする世界にも闇の創造主達はすでに入り込み、光ある人々を捕えるという事さえも起きています。

このままでは、地球のアセンションが失敗するどころか、この宇宙の存続さえも危ない状態です。

私達は、創造主の中に「光を生み出す創造主」と「力を生み出す創造主」を利用している創造主やこの宇宙に大きな闇を流し、この宇宙を奪い取ろうとする創造主が未だ残っているのではないかと思います。皆さんはどう思われていますか。」

第6評議会の創造主で「全ての創造主の働きをもっている創造主」は、私の言葉を真剣に聞いています。

「TAKESHI さんが言うとおりに、現在の地球の状況は異常です。

まだ、隠れて操作を行っている創造主がいる可能性は大きいと思います。

実は私達も、その創造主が誰なのか、確証がつかめていないのです。

私達も協力しますので、ぜひ調べてください。」

第5評議会の「陽の働きを持つ創造主」も同じ考えのようです。

私達は、地球と宇宙の未来のために計画を実行することにしました。

私達は、地上に戻るといつものように、ピカフラッシュを使って、人間の潜在意識に隠れていた「光を生み出す創造主」と「力を生み出す創造主」のエネルギーを調べはじめました。

彼等を動かしているエネルギーや存在を見つけださなければなりません。

私はピカフラッシュに、上に次元につながっているラインを見つけ、そのラインを追っていくように命じました。ピカフラッシュを先頭にしてグルナレッドやロッド星人、そして第5評議会から第7評議会のスターピープル達も一緒に走り出しました。

しかし、そのころから私達の体に大きな痛みが走り出しました。

私の後頭部でエネルギーが炸裂するような痛みが起きますので、このままでは脳神経に大きなダメージを受けてしまいそうです。

美樹さんも、お腹の子供が大きく圧迫されて苦しんでいると伝えてきました。

先日も、お腹の子供の意識と肉体が分離され、危ないところをスターピープルと創造主に助けてもらいましたが、今度は子供が圧迫されて、美樹さんの呼吸も苦しくなっています。

私達は、第6評議会の創造主や「愛の創造主」に助けを求めました。

おそらく相手の創造主も、自分達の存在が気付かれないように、私達の命を奪おうとしているようですが、第6評議会、第7評議会の創造主が、私達を守ってくれているようです。

しかし、これも時間の問題です。

早く問題となっている創造主を見つけないと大変な事になります。

ピカフラッシュと第4評議会の創造主を見張っていた第5評議会のスターピープル達が1人の創造主を見つけたようです。

その創造主は、第4評議会の創造主ですので、闇に落ちた「光を生み出す創造主」と「力を生み出す創造主」がいた評議会です。

私は、少し見当はずれでしたが、まずこの創造主から調べることにしました。

第5評議会の創造主にも立ち会ってもらい調べることにしたのですが、第4評議会の創造主たちが非常に困惑しています。

というのも、この創造主は第4評議会の創造主の中でもとりわけ優しく愛に満ちていた創造主だったからです。

第4評議会の創造主が、私達に状況を話してくれます。

「第5評議会の創造主様、TAKESHIさん、本当に申し訳ありません。

先日までは気づかなかったのですが、この「穏やかさの創造主」までもが闇に落ちるとは思いもしませんでした。

この創造主は、私達の中ではもっとも穏やかで優しく、愛に満ち溢れた宇宙を創る創造主でした。

私達もこの穢れない創造主を可愛がっていたのですが、いつの間に、このような闇にまみれた創造主になってしまったのでしょうか。

この創造主は「愛の創造主」とも仲が良く・・・」

そういったところで、第4評議会の創造主は、はっと気づいたようです。

「愛の創造主」と仲が良かったからこそ、闇の創造主に狙われたのです。

「私達は、一体何をしていたのだろう。」

私達が、他の創造主をないがしろにしていたばかりに、このような罪のない創造主まで闇に落してしまった。どうか第5評議会の創造主様、「穏やかさの創造主」を助けてあげてください。」

第4評議会の創造主の創造主達が、この場に集まってきて祈りをささげています。

しかし今の「穏やかさの創造主」は以前とは異なる闇に落ちた創造主です

彼女が、地球上に残されていた「光を生み出す創造主」と「力を生み出す創造主」のエネルギーを利用して、人々の潜在意識に入り込み、人々から光を奪い取っていたことが判明しました。

おそらく、情欲の創造主となった「愛の創造主」に引きずられて、闇の創造主になったのか、あるいは「愛の創造主」を助けようとして大きな闇に捕まったのかはわかりませんが、「穏やかさの創造主」の闇はとても深い物のように思えます。

第5評議会の創造主は、彼女に一生懸命光を送っている第4評議会の創造主達をしばらく見守っていましたが結論を出したようです。

「第4評議会の創造主達よ、残念ながら「穏やかさの創造主」は光に返しましょう。

彼女はそのスピリットまで、すでに闇に侵されています。

彼女がこの闇を乗り越えることはできないでしょう。」

「穏やかさの創造主」の体が、光に包まれてくるくと回るように上の次元の光の中に吸い込まれていきます。私達にとって、罪もない創造主が闇に飲み込まれて光に戻る姿を見る時が一番辛いのです。

しかしながら、私の後頭部の痛みは更にひどくなり、お腹の子供も圧迫され痛みを訴えています。本当の犯人は、この創造主ではないようです。私達は、さらに上位の創造主を探すことにしました。

第7章 全ての宇宙を闇におとし入れた創造主

PART 1 「変化を促す創造主」との応答

その時、第7評議会のスターピープルから連絡がありました。
怪しい行動をとっている創造主が第6評議会にいるという事です。
おそらく私達にサイキックアタックを行っているエネルギーをスターピープルが見つけたのでしょう。
私達は、すぐに連絡をくれたスターピープルのもとに行きました。

すでに、私のスピリットと深い関係を持つ「全ての創造主の働きを持つ創造主」達も集まってきています。
私は、問題があるとされている「変化を促す創造主」と呼ばれている創造主と話をすることにしました。
先ほどの「穏やかさの創造主」からのラインも、彼につながっているようですが確固たる証拠にはなりません。
第6評議会の創造主達も何が起きたのかと、集まってきました。

第7評議会の創造主も見守っていますので、「変化を促す創造主」は、嘘を言うことができません。
私は、「変化を促す創造主」に向かっていくつかの質問をすることにしました。

「地球は今大きな混乱を迎えています。
私達の宇宙は、闇に落ちた創造主によっていくつもの混乱が起きているからです。
それも、第4評議会の「光を生み出す創造主」達が、闇の配分が多いエネルギーを流してくれるように、第5評議会の創造主に頼んだ時、第6評議会の創造主である「好奇心の創造主」が、「光の配分を行う創造主」をコントロールして、闇の配分が多いエネルギーを流したために、私達の宇宙を司る創造主達が闇に落ち、宇宙そのものが闇が多いものとなってしまいました。
その事をご存知でしょうか。」

「変化を促す創造主」はうなずきながら「はい、知っています。」と答えます。
「それでは、あなたは同じ評議会の創造主である「好奇心の創造主」とこの事について関わりはありましたか。」
と私は尋ねます。
「いいえ、私はこのような事が起きたことも最近まで知りませんでした。」
「変化を促す創造主」は平然と答えました。

「そうですか、あなたは「光を生み出す創造主」もしくは「力を生み出す創造主」に力を貸したり、彼等が行なった事を手助けしたりしませんでしたか。」
「いいえ、私と彼らは所属している評議会が異なりますので、会ったこともありません。」
「第5評議会の創造主の1人が、誰かにコントロールを受けて第4評議会の創造主達の光を奪い、スピリットを分断してしまう事件がありましたが、その創造主に対して何らかのコントロールを行いましたか。」
「いえ、行っていません。」

彼はすべての事を否定して自分が関与していないことを言い張ります。
私は、すこし質問を変えてみました。
「あなたは、今の創造主達に対してどのように思っていますか。」

「創造主達は、とても生ぬるい環境にいると思います。
自分たちが課せられた仕事に対して責任を負わなかったり、あまりの平和さに甘えてしまい自分達の状況をしっかりと見抜こうとしてはいません。
そして自分の事以外には興味がなく、他の創造主達の仕事に無関心な創造主も多いようです。
それらの創造主は、自分に甘えてしまい厳しさを見失っています。」

「そうですね。
私も様々な創造主を見てきて、あなたと同じように感じました。
創造主が創造主としての仕事をしていない事や闇のエネルギーに捕らわれ、地上に生きている人達を顧みることがない態度に大きな怒りを感じました。」
「私達創造主は、もっと厳しくなければならぬと思い、私は皆さんを戒めようとおもったのです。」
「いまの創造主の現状からすれば、其れも大切なショック療法になるかもしれませんね。
それで創造主達を戒める為にどうしたのですか。」
「私は、創造主達が世界の厳しさを知る必要があると思っています。
そのために、今よりも多くの問題や障害が起きることで、彼等は大切なことを学ぶと思えば少しばかりの闇を宇宙に混ぜました。」

創造主達にざわめきが起こりました。
「あなたが創造主達に対して怒りを持っていることは、あなたとは全く異なる立場にいる私にもわかります。
しかし、その事によって、少なからず創造主が闇に飲み込まれて、宇宙を混乱に導いてしまいましたね。」
「それは、彼等が自分達の仕事に対する責任や正義感、自分自身に対する厳しい理性を失っていた為だと思います。」
「もちろんそうですが、創造主によっては、超えることができない程大きな障害であった場合もあるようです。
それも彼等は超えていかなければならなかったとお考えですか。」
「その通りです。
大きな壁を超えることなくしては、創造主の成長はありません。」
「「変化を促す創造主」よ、あなたは創造主を成長させるために、この宇宙に闇のエネルギーを流したと言いますが、そのほかに一切の野心はありませんでしたか。
この宇宙を自分の都合がよいように運営したいとか、創造主達を支配してみたいとか、その様な気持ちは一切ありませんでしたか。」

私の質問に創造主達の息が止まります。
「いえ、その様な気持ちはありません。
私は、自分で宇宙を創ろうと思えば作ることも出来ますし、その様な気持ちは一切持っていません。」
「あなたは、今この宇宙で起こっている混乱や闇の創造主が行なったことに対して、自分には全く関係ないと考えていますか。」
「全く関係ないとは言いませんが、私の責任ではないと考えています。」

私と「変化を促す創造主」の会話は続きますが、彼は自分の正当性を主張します。
確かに、今の創造主の現状をみれば、彼が言う事も非常に正しいものですが、第6評議会の創造主達が与える試練は、下部の創造主達にとっては、時として命取りになる事もあるのです。

私は、第7評議会の創造主に判断をゆだねました。

「「変化を促す創造主」と TAKESHI さんの話をしばらく聞かせていただきました。
「変化を促す創造主」の思いは純粹で嘘がない物だと、私は思いました。
しかしながら、「変化を促す創造主」と下の評議会の創造主では、能力もパワーも全く異なりますので、「変化を促す創造主」の考え通りにならなかったことも事実ですし、他の創造主に相談することなく闇のエネルギーを、TAKESHI さん達の存在する宇宙に流し込んだことはけっして良い事ではなかったと思われます。
どうか TAKESHI さん達の宇宙をきれいにしてあげる手助けをしてください。」

「変化を促す創造主」が、まだどのようなことをしたのか証拠がつかめていないので、第7評議会の創造主も「変化を促す創造主」に対する処罰を行わなかったようです。
私は、「変化を促す創造主」に対して謝罪することにしました。
「「変化を促す創造主」よ、大変申し訳ありませんでした。
私達の宇宙は今大変なことになっていますので、その原因を知りたかったのです。
しかし、あなたが私達の宇宙にはびこっている「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」のエネルギーを一掃していただけると、私達は大変うれしく思います。」

「変化を促す創造主」は無表情に「はい」と答えてその場を立ち去りました。
私達は引き続き「変化を促す創造主」の様子を見守る事にしました。
私の体の痛みもお腹の子供に対する圧迫も、もう止んでいるようです。

PART 2 「変化を促す創造主」の追放と新たな光

私達は、9日の日の深夜に行われた「変化を促す創造主」との話が終わると疲れて寝てしまいました。
そして朝起きると、ロッド星人にどのような状態であるか尋ねてみました。
「TAKESHI さん、少し様子がおかしいのです。
第1評議会のスターピープル達は、記憶を失った様で、何をしたらよいかわからずウロウロしています。
私と話をしても話がかみ合わず、「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」のエネルギーが人々の意識の中にはいりこんでいるからその処理をしなければいけない、と言っても「光を生みだす創造主」や「力を生みだす創造主」の事さえも覚えてはいないのです。」

私は、焦りました。
私達が寝ている間に何が起きたのか突き止めなくてははいけません。
「それで、ロッド星人、あの2人の創造主のエネルギーは、「変化を促す創造主」が消してくれたのですか。」
「いえ、私が調べたところ、創造主のエネルギーは人々の意識の中に残っています。
消えているのは、スターピープルや創造主達の、彼等に対する記憶の方です。」

これは一体何が起きたのか、グルナレッドにも尋ねてみます。
「「変化を促す創造主」は、確かに「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」のエネルギーを消しています。
しかしそれは第3評議会の世界よりも上の世界です。
第6評議会の創造主達から見える場所のエネルギーは消し、第1評議会、第2評議会の宇宙では逆に、創造主とスターピープルから、彼等の記憶を消し去ったようです。」

私は、「変化を促す創造主」が行なったことが、どのようなことなのか最初理解できなかったのですが、考えてみると大変なことが起きています。

今の状況では、「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」の分身が、第1評議会と第2評議会を自分達の思うように操ることができるのです。

そしてその分身を操っている者がいるとしたら、この世界は彼の物です。

私達は急いで第6評議会に上がって行きました。

すでに、「全ての創造主の働きを持つ創造主」達は、私に来ることを待っていたようです。

私は、第7評議会の創造主も呼び寄せました。

「「変化を促す創造主」よ、あなたは私達の宇宙に対してどのような処理を行ないましたか。」

「皆さんの希望どおり、「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」のエネルギーを消し去りました。」

「確かに、第3評議会から上の宇宙では、彼等のエネルギーは消えていましたが、第1評議会と第2評議会では、彼等のエネルギーが残り、創造主とスターピープル達の記憶の方が消えていました。

これはどういう事ですか。」

「変化を促す創造主」は何も答えず黙っています。

私の言葉に「全ての創造主の働きを持つ創造主」も何が起きたのか不安な表情をしています。

「それでは、「変化を促す創造主」が何をしたのか、時間をさかのぼって見に行くことにしましょう。」

私は第4評議会の「流れを作る創造主」を呼び出し、私達を少しだけ過去の時間に戻してもらいました。

そこでは、「変化を促す創造主」が、私達の宇宙の様子を見ている姿が映し出されます。

「変化を促す創造主」は第3評議会から上の世界では、「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」のエネルギーを消すように光を送っています。

しかし、第1評議会と第2評議会の宇宙に関しては、創造主やスターピープルにたいしてスモキーブラウンの色の光を送っています。

それによって、創造主やスターピープル達の意識をコントロールしていることが分かります。

第7評議会の創造主はその様子を見て「変化を促す創造主」に言いました。

「あなたは、私達との約束をやぶり、第1評議会と第2評議会の創造主とスターピープルから、闇に落ちた創造主の記憶を抜き去りましたが、それは何故ですか。」

「変化を促す創造主」は沈黙しています。

「あなたは、「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」のエネルギーを残したまま、第1評議会と第2評議会の創造主やスターピープル達から、彼等の記憶を抜き去ってしまえば、この2人の創造主が、地上の世界を簡単に支配できるという事をわかって、このような処理を行なったのですか。」

「変化を促す創造主」は沈黙したままです。

「それでは、あなたには、今迄の事の責任をとって、創造主としての資格を全て剥奪し、1人の人間として地上に降りてもらい、学びを行ってもらいます。

それでよろしいですか。」

「変化を促す創造主」は表情を変えずに答えます。

「創造主の皆様がそういうのであれば、私はそのようにいたします。」

「変化を促す創造主」は、そういうと光の中に消えて行きました。

多くの創造主達が、言葉を失いその後ろ姿を見送っています。

私は、第7評議会の創造主に、「これでよかったのですか。」と尋ねます。

「今回の事は、私達にも難しい判断でした。

しかし、「変化を促す創造主」が、何か不審な行動を行っていたことは、だいぶ前から私達も知っていたのですが、具体的に何を行なったのかは、私達は知ることができませんでした。

そのために、TAKESHIさん達に、地球の地上世界に降りてもらい、様々な創造主が行なった事を調べてもらいながら、一つ一つ上の段階の創造主にたどり着いてもらいました。

私達は、あなたが経験したことをもとに、創造主に反省を求めたり、反省を聞き入れない創造主は光に返してきました。

これはあなた達にとっても過酷な体験だったと思いますが、私達にとっても自分達が生み出した創造主を光に返すという事はとてもつらい事なのです。

しかし、私達は創造主の不正を正さなければなりません。

そうしなければ、これからも闇に飲み込まれる創造主達は後を絶たないでしょう。

そして皆さんが、ご覧になったように、闇に飲み込まれた想像主によって皆さんの宇宙だけでなく多くの宇宙が崩壊する危機を迎えたのです。

皆さんが、この時期までに、第3評議会や第4評議会にたどり着き、彼等が抱える闇の創造主達を処理することができなければ、宇宙の未来はなかったことでしょう。

そしてその黒幕が、「変化を促す創造主」だったのです。

彼は非常に理性的で優れた判断力や他の創造主を凌駕する能力を持っています。

私達も、何の証拠もなく彼を罰することはできないのです。

皆さんが傷つきながらもその証拠を作ってくれたおかげで、私達も彼を処分することができました。

私達にとっても、これは辛い判断でしたが、他の創造主と宇宙、宇宙に生きる全ての生命達をすくためには必要なことだったのです。」

私は、第7評議会の創造主に答える言葉もなく、佇んでいます。

「それから、地球や宇宙に蔓延している闇の落ちた創造主達のエネルギーもきれいにしなくてははいけませんし、今回「変化を促す創造主」によって意識をコントロールされた創造主やスターピープル達も元に戻してあげなくてはなりませんね。

それは、私達も協力いたしますので、第6評議会を中心に行ってください。

TAKESHIさん、そして皆さん、本当にありがとうございました。

私達は、このことを解決するために地球を生みだし、地球に創造主への世界に至る道を用意していたのです。今回の地球のアセンションは、まさに創造主の世界を新しく生まれ変わらせるためのアセンションだったのです。

それを皆さんは、しっかりと行ってくださいました。

私達は、心から感謝しています。」

その場にいた多くの創造主は、第7評議会の創造主の言葉に胸を打たれて聞いています。

ただ、私はそのまま悲しい気分には浸っていません。

地上では、記憶を失い混乱している仲間達がたくさんいます。

「それでは偉大なる第7評議会の創造主よ、私達の宇宙に皆さんの偉大なる光を満たしてもらっていいですか。第6評議会の創造主達、第5評議会の創造主達、第4、第3評議会の創造主達も力を貸してください。」

ロッド星人は、私の言葉を聴くとすぐに地上に戻っていきました。

これから何が始まるか、彼はすでに分かっているので、地上に戻り、第1評議会、第2評議会の創造主達やスターピープル、物理世界に生きる者達に創造主達の光を受け取る為の準備をさせています。

第7評議会を頂点にして、第6評議会から順番に下の評議会に向けて大きな光が流れ込んでいきます。

純粋な愛のエネルギーは、闇のエネルギーをどんどん光に変えながら、創造主とスターピープルを光で満たしていきます。

やがてその光は、第2評議会、第1評議会の創造主とスターピープルを満ちし、物理世界へと降りていきます。

記憶を失っていた創造主やスターピープルも記憶を取り戻し仕事に戻る事ができそうです。

人々の潜在意識や一人一人の意識の中に紛れ込んでいた闇の創造主のエネルギーも光と共に消えていきます。

地球のいくつもの次元に隠されていた闇のエネルギーも光と共に消えていきます。

「光を生み出す創造主」と「力を生み出す創造主」によって仕掛けられた罠に捕えられたスターピープル達もたくさん解放されて出てきます。

彼等は、地球のアセンションのために様々な星から手伝いに来てくれたのですが、光56%の世界に設置されたブラックホールの機械によって捕えられ、いくつもの次元に閉じ込められていたようです。

彼等も、第7評議会の創造主から流れ込んできた光によって、次々と解放されていきます。

これで平和な地球が戻ってくるようです。

私達は、12月の末日までにアセンションの仕事を済ませなくてはなりません。

来年からは、アセンションした世界で、皆さんを光の地球に導くために、ファーストコンタクトを始め、様々な教育を行わなければならないのです。

PART3 ラストボス！「怒れる創造主」

「変化を促す創造主」を処理した翌日の事、朝起きて食事の準備をしていた美樹さんがいきなりスープのお皿を落としてしまいました。

突然体が硬直して動かなくなったようです。

私達は、こぼれたスープをふき取ると、何が起きたのか調べる為に、ロッド星人やグルナレッドを呼び出しますが、彼等も何が起きたのかわからないようです。

ただ、今までにない大きな力が襲ってきた事だけは確かです。

先日、私達の宇宙に大きな闇のエネルギーを流し込んだ張本人を見つけ、これですべてが終わったと思っていただけに、私達にはショックでした。

するとそこに、第7評議会の創造主が現われました。

「TAKESHIさん、美樹さん、驚かせて大変申し訳ありませんでした。

実は、私達がずっと探していた「怒れる創造主」が急に現われたのです。

この創造主は、昨日地球に追放した「変化を促す創造主」を作り出した創造主です。

彼はいくつもの宇宙で、闇の創造主を作り出していたのです。」

「まだそんな大物の創造主がいたのですか。」と私は尋ねます。

「彼は、私達を生みだした第8評議会の創造主が作り出した創造主で、この宇宙に変化をもたらすために「闇のエネルギーを持つ創造主」として創られたのです。

最初の頃は、私達と共同で仕事を行い、創造された宇宙に少しばかりの闇のエネルギーを入れていました。それによって、宇宙の中に少しだけ波乱が起き、創造主やスターピープル達が成長するきっかけになりました。もちろんその当時の闇はまだ小さく、創造主が闇に飲み込まれることは決してありませんでした。」
第7評議会の創造主はここで一息つきました。

「しかし、「怒れる創造主」は、私達の評議会に反乱を起こし、協調して宇宙を創造することを行わなくなり、独自で活動するようになりました。
彼は、創造主が作った宇宙に対して規定以上の闇のエネルギーを流し込みはじめ、宇宙に大きな闇をもたらしてしまったのです。

私達は、彼の活動を停止させるために拘束しようとしたのですが、その間にいなくなってしまうました。
この「怒れる創造主」は、「変化を促す創造主」のような部下を数名つくり、いくつもの宇宙に混乱をもたらしたのです。

私達は長い間、彼を探していましたが見つけることができませんでした。
しかし「変化を促す創造主」がいなくなったことに気づいて突然現れてきたのです。」

「それで、その創造主は捕まえることができたのですか。」

「もちろん、捕まえることができました。

彼を捕まえることができれば、彼の下で働いている闇の創造主達も捕まえることができます。
そうなれば、いくつもの世界で混乱の原因となっている創造主達をすべて捕まえることができますので、いくつもの宇宙が平和になると思います。」

第7評議会の創造主は、「怒れる創造主」を捕まえる事ができたのでとてもうれしそうに、私達の元から消えていきました。

おそらく第7評議会の創造主が全員で、「怒れる創造主」の部下たちを探し回っていることでしょう。
それで多くの宇宙が平和になるのなら私達も大助かりですが、その反面、創造主達の行動にはあきれてしまいます。

私達もロッド星人達も大きなため息をつきます。

「一体、どこまで行けば終わるのだろう。

これですべてが片付いたとおもったら、次から次へと闇の創造主が出てきますね。」

「TAKESHIさん、創造主ってこういうものですよ。」とロッド星人もつぶやきます。

夜になると、再びロッド星人から連絡があり、厄介な問題が持ち上がりました。

「TAKESHIさん、私達は地球の闇の浄化を行っていたのですが、再び大きな闇のエネルギーにぶち当たってしまいました。

「光を生みだす創造主」と「力を生みだす創造主」による闇のエネルギーは、ほとんど浄化できたのですが、その下に隠されていた闇のエネルギーが噴出してきているのです。

これは、おそらく先ほどの「怒れる創造主」のエネルギーかと思われそうですが、彼が光に返された事で、彼によって制御されてきた闇のエネルギーが、コントロールを失ってあふれ出てきたのではないかと思います。」

私達も見に行くと大きな黒いエネルギーが地表からあふれ出しているように見えます。

私は、第7評議会の創造主を呼びだして尋ねます。

「このエネルギーは、確かに「怒れる創造主」が作り出したネガティブなエネルギーである事に間違いはありません。

私達も、各宇宙を調査していると、彼が関わった宇宙の多くで同じような現象がみられているのです。

私達は、この宇宙を覆っている彼のエネルギーがどこから来ているのかを調べているのですが、まだそれが見つからないのです。」

どうやら、「怒れる創造主」が作り出した闇のエネルギーの貯蔵所が、この宇宙のどこかに隠されているようです。

私達は、その貯蔵庫を探しにピカフラッシュ達と飛び立ちました。

私達は、地球を離れ、太陽系も天の川銀河からも遠く飛び立っていきます。

そしていくつもの銀河や星団を見ながら、ひとつの黒々とした暗黒星団のような場所に飛び込んでいきます。

その中には、いくつもの闇の障害があって私達のいく手を遮りますが、やがて大きな闇の渦巻の中に飛び込みます。

すると、その奥には今まで見たこともないネガティブなエネルギーの貯蔵庫があります。

以前、地球のコアの奥で見た闇のエネルギーの塊を、太陽系位に拡大したほどの大きさです。

これは、私達だけで処理するのは、どう考えても無理なようです。

第7評議会の創造主達を呼び寄せました。

第7評議会の創造主達は、このネガティブエネルギーの貯蔵庫を見て大喜びです。

「私達は、この貯蔵庫をずっと探していたのです。

この貯蔵庫から、大きな闇のエネルギーがそれぞれの宇宙に送られているのですが、そのひとつが発見されたことにより、他の貯蔵庫も見つかると思います。

皆さんありがとうございました。」

第7評議会の創造主達は、数名でこのネガティブエネルギーの貯蔵庫を囲むようにして光を送ります。

他の創造主は、このエネルギーの波動を基に、他の貯蔵庫を探すために、この場所を飛び立っていきました。

やがて創造主から送られてくるエネルギーが、この貯蔵庫を光に返していきます。

そして、この貯蔵庫が光に返されると、第7評議会の創造主達は他の貯蔵庫に向かって飛んでいきました。

何か非常にあっけない感じがするのですが、それで、私達の宇宙や他の宇宙を包み込んでいた闇のエネルギーがなくなれば、それに越したことはありません。

第8章 救済される種族達、そして光の地球

PART 1 リラ星の純粋種族の救済

今日は美しい満月です。

「怒れる創造主」の闇のエネルギーもきれいに片付いてきたようです。

私達は、光59%の世界への移動を前に、それらの世界に異常がないか見回っています。

その時、昔助けてあげたリラ星の事が思い出されました。

リラ星の人々は、この天の川銀河において叡智ある人々の元となった種族です。

いうなれば、最初のスターピープルといってもよいかもしれません。

おそらく創造主によって生み出されたのだと思いますが、天の川銀河に叡智ある種族を成長させる為に、今は亡きリラ星で高度な文明を築いていました。

「今は亡きリラ星」という意味は、この星はかつて高度な科学技術を持っており、その科学技術がもとで星を壊滅させるような爆発を起こしてしまったのです。

私達は、私達の宇宙船であるフェニックス号が出来上がった時、この宇宙船の時間を超える能力を利用して、リラ星が壊滅するときにタイムトリップをしたことがあります。

もちろん、リラ星の人々を助け出す為です。

私達は、爆発によって壊滅間近になったリラ星に降り立ち、リラ星の人々の一部を救出してフェニックス号に載せました。

そして、プレアディス星団やアルクツールス、シリウスなどの星々に、彼らに移住させることにしたのです。

移住先の人々も、天の川銀河で最高の叡智を誇るリラ星の人達ですので、喜んで受けて入れてくれました。

そして自分達の星の人達と融合して、リラ系プレアディス人やリラ系アルクツールス人等を作りあげ、自分達の星だけでなく、天の川銀河やプレアディス星団の発展に寄与していったのです。

それから、リラ星人達は、多くの星に移り住み、天の川銀河はとても発展した銀河になってきました。

しかしリラ星の種族の中でも、自分達の純粋な種族を残そうという人達もいて、その様な人々は他の星には移住せず、「リラの白い塔」と呼ばれる場所に居住し、他のリラ系の種族と連絡を取りながら、天の川銀河のために貢献しています。

エレナさんに、リラ星の人は、宇宙連合に入っているのか聞いてみました。

「リラ系の種族の人達は、宇宙連合には加わっていますが、リラの純粋な種族がまだ残っているという情報は宇宙連合にありません。

もし彼等が純粋な種族として残っているならば、ぜひお会いしたいと思います。」

私達は、フェニックス号に乗って「リラの白い塔」を目指します。

リラの人々は、私達が来ることを待っていたようです。

「TAKESHIさん、久しぶりです。

あなたにお会いできる日が来るのではと、私達はずっと待っていました。」

「リラの皆さん、どうしたのですか、少し元気がないようですが。」

確かに、「リラの白い塔」の人々は力なく弱っているようです。

「私達の種族が減びる時が来たようです。

私達の波動も弱ってきました。」

「それは何故ですか。」私は驚いて聞きました。

「私達の「リラの白い塔」は、光40%台の世界に作られていました。

この光40%台の世界の人達を叡智ある存在にしていく事が私達の仕事でした。

今迄は、この世界にいても高い波動を持つ創造主の光を受け取ることができたのですが、今はもうできなくなってしまいました。

そのために、私達が生存する世界のエネルギー状態が悪くなり、私達の生命力が衰えてきているのです。」

詳しく話を聞くと、地球のアセンションに伴って40%台の世界を、それ以上の世界と完全分離したことで、

「リラの白い塔」に届いていた創造主の光が届かなくなったことが原因のようです。

その話を来て、アセンションの実行部隊のリーダーであるエレナさんが大きなショックを受けています。

「私達が行なっているアセンションによって、闇の世界に閉じ込められてしまうスターピープル達がいるという事を全く考えてもいませんでした。

これは、私達にとって至急解決しなければならないことです。

TAKESHI さん、どうしましょう。」

「おそらく、この「リラの白い塔」を、私達が復活させたときに、私達はまだ40%台の地球にいましたから、そのまま40%台の地球に位置づけされているのだと思います。

彼等を、光の地球に移動させてあげたらどうですか。」

「そうですね、それが良いかもしれません。」とエレナさんはほほ笑みます。

私は、グルナエルや第4評議会の科学技術に優れたスターピープル達をよびよせ、「リラの白い塔」を光の地球に移すことが可能か検討してもらいました。

その結果、移動は可能なようです。

私は、リラのリーダーに問いました。

「皆さんの「リラの白い塔」を光の地球に移し替えることが可能なようです。

そこで新しい地球の人々を導いてくれる仕事をしてもらえませんか。

もちろん、皆さんがどのような生き方をなさるかは自由ですが。」

「TAKESHI さん、私達は喜んで、光の地球に行きましょう。

そして皆さんのお役に立てるように共に働きましょう。」

私もエレナさんも大喜びです。

「それでは、私達の仲間が、「リラの白い塔」を新しい地球に移しますので、それまで宇宙連合にきて体を休めてください。」

私はエレナさんに、彼等に適した評議会はどこになるか聞いてみました。

この天の川銀河でも最古の叡智を誇る種族ですから、アセンション度数も高いのかなと、思ったからです。

「彼等はまだ、第1アセンションしか迎えていないようです。

おそらく彼等は、光40%の世界に対応できるように、進化を自分達で抑えていたようです。」

「そうですね、彼等はきっと光の地球に来たら急速な進化を迎えるでしょうね。」

その時は宇宙連合に迎えてあげてくださいね。」

「TAKESHI さん、もちろんです。」

リラの種族は、天の川銀河の種族にとっては偉大な先祖にあたる種族ですので、誰もが尊敬を持ってお迎えすると思いますよ。」

私達も、もう明日には光59%の世界に入り、世界は完全分離を迎えますので、これが最後のチャンスだったかもしれません。

私達は、「リラの白い塔」の人々が、新しい世界に移る準備をしている間に、リラのリーダーに何気ない質問をしました。

「あなた方のほかに、未だこの世界に閉じ込められている種族はいるのですか？」

するとリーダーは、「今はもう連絡が取れなくなってしまったのですが、後3種族ほどいるはずですよ。」と答えます。

その言葉を聴いて、私達は、顔を合わせました

「エレナさん、今日中に探さないと大変なことになりますよ。」

「そうですね、すぐに宇宙連合に連絡して、完全分離をしばらく止めてもらい応援をもらいましょう。」

PART 2 闇に閉じ込められていた地球の原初種族

しばらくするとアシュタールの宇宙船も私達のもとに数隻やってきてくれました。

1隻は、リーダーを除いて、「リラの白い塔」の人々を乗せて宇宙連合へと戻ってきました。

他の3隻は、新たに種族が見つかった時に彼等を収容できるように準備されています。

私は、リラのリーダーの情報をもとに、残された種族を探すのですがなかなか見つかりません。

私は、この世界に無数にあるブラックホールを管理する「ゴールド・ルシファー」を呼びだしました。

「ルシファーよ、ひさしぶりです。」

あなたにお願いがあつてきてもらいました。」

ルシファーは黄金色の羽をはばたきながら、答えます。

「最近の皆さんのご活躍は、私達も聞いています。」

宇宙の闇がどんどん取り払われていっていることはとても素晴らしいことですね。

私達も、これからどのような世界が生まれるか、大変興味深く見守っております。

それで、お願いとはどのようなことですか。」

「実は、リラ族のリーダーから、未だこの宇宙の闇の中に閉じ込められたままの種族が3種族あると聞いたのですが、あなたが管理するブラックホールの中に閉じ込められていないかと思ってお聞きしたのです。」

「わかりました。すぐに調べてみましょう。」

そうすると、「ゴールド・ルシファー」は、どこかに飛んでいきました。

「ゴールド・ルシファー」が管理するブラックホールは、私達の宇宙から「宇宙の大地」と呼ばれる場所につながるブラックホールです。

「宇宙の大地」とは宇宙がどんどん発展していく中で、過剰な発展が行われると宇宙のバランスが壊れてしまうので、発展を止めるようにエネルギーを送ったり、宇宙を安定させるためにある場所です。

しかしブラックホールは、大きな暗黒の世界ですので、この中に入り込んでしまえば、出るのが困難となり、そのままブラックホールの中に閉じ込められてしまう事も多いのです。

私が、他のメンバーにブラックホールの話をしている間に、「ゴールド・ルシファー」が戻ってきました。

「TAKESHI さん、あなたがお探しの種族かどうかはわかりませんが、2種族はブラックホールの中にいることが確認されました。

それでは、ご案内します。」

私達は、「ゴールド・ルシファー」に案内されてひとつの種族が閉じ込められている場所にたどり着きました。彼等はかなり大きな種族のようです。

ひとつに固まって、暗黒の中に存在しています。

彼等は、私達が近づいてくるのを感知したようです。

立ち上がって、私達を見えています。

アシュタールの船の一隻が、彼等を収容したようです。

私達は、助け出された種族の人々の様子を見に行きます。

この所属はとても古い種族で、第1評議会のメンバーは、誰も知らないようです。

ロッド星人が彼等と話をして、彼らの種族の事を調べています。

「彼等は、もともと地球人の元となる種族だったようです。

それも今の地球ができる前の地球で、文明を発展させる予定だったようです。

ところが、大きな力を持った創造主によって、最初の地球を破壊され、人々はここに閉じ込められたようです。やがて、彼らが滅んだと思われた事で新しい地球が作られ、彼らに変わる存在として、新しい地球人が、生み出されたようです。」

「という事は、彼等がそのまま地球人として存在していたのなら、地球は大きく変わっていたのでしょうか。」

「いえ、地球だけでなく天の川銀河が大きく変わっていたと思います。

それだけ彼等は叡智ある存在ですので、彼等がそのまま地球で進化していたのなら、私よりもはるかに優れたスターピープルになっていたのではないのでしょうか。」

ロッド星人は、これほど素晴らしい種族が救い出せたことに大きな喜びを持っています。

「しかし、一体誰がこの種族を閉じ込め地球を配したのでしょうか、あのライブツツヒ達を閉じ込めた第1評議会の「狂気の創造主」でしょうか。」

「いえ、彼等は「狂気の創造主」が、このような事を行うずっと前に、この場所に閉じ込められていますのでもしかしたら、昨日処理した「怒れる創造主」かもしれません。

彼が光に返される事で、これらの種族たちの場所が明らかになり、助け出すことが可能になったと思われれます。」

確かにそうかもしれません。

彼等は今の地球ができるずっと前にここに閉じ込められたのですから、時を止められて死ぬこともなく、長い時間、自分達自身と向かい合って生きてきたのです。

「怒れる創造主」が、創造主としての力を全て失った事で、彼等は、闇の奥深い世界から出てくることができたことをお互い喜んでいます。

彼等を乗せたアシュタールの船は、私達と別れ、彼らの治療を行う為に、宇宙連合へと向かいます。

さて私達は、「ゴールド・ルシファー」が見つけてくれたもう一つの種族のもとに急ぎましょう。

「ゴールド・ルシファー」は、私達を連れて異なるブラックホールへと入ります。

その中には、女性達が中心となっている種族が暗黒の中にポツンととり残されているようです。

彼女達は、生きる気力を失ったのか、ただ横たわっています。

アシュタールの船の一隻が彼女達を救出しました。

私達もすぐ、その船のもとに移動します。

心も体も傷ついて生命力さえも乏しくなった人々を見て私達も胸が痛みます。

私達と共に見失った種族を探してくれているリラ星のリーダーは、彼女たちのもとに走りより、傷ついてはいますが、助け出されたことに感謝の言葉を述べています。

「本当に良かったです。

彼女達の種族は人々の愛や女性性、純真さを高める為のスターピープルで、決して他のスターピープルのように体力があるわけではないので、連絡が途絶えた時に、皆さん死んでしまったかと心配していたのです。

TAKESHI さん、皆さん、本当にありがとうございます。

この種族は、私達リラ族にとってはかけがえのない友人です。

そして、先ほど発見された地球人の元となる種族と協力して、愛情深い地球人を育てることが役目だったので。」

アシュタールのエレナさんが涙を浮かべています。

「皆さんの祈りがあったからこそ、彼女達を救い出すことができました。

私達には、もうすでに滅び去ってしまったと思われる幻の種族を、助ける事ができてとてもうれしく思います。

私には、今日という日は、私の人生の中でも忘れることができない日になりました。」

彼女達を収容した宇宙船は、少しの時間も無駄にしないように、彼女たちの治療のために、宇宙連合へと向かいます。

PART 3 宇宙に安定をもたらす種族達

残りはあと1種族ですが、「ゴールド・ルシファー」は、ブラックホールの中にはいないと言いますので、他の場所を探さなければなりません。

私は、ブラックホールを突き抜けて「宇宙の大地」に入って行きました。

私達は、よくブラックホールを抜けていきますので、何とも思わないのですが、私達と一緒に来たアシュタールの船は、ブラックホールにも入ったことが無いようで、不安気に私達の後をついてきます。

時々、私達のフェニックス号に「大丈夫でしょうか。」という気の弱い連絡が入ります。

やがて、ブラックホールを抜け出て「宇宙の大地」につきました。

そこは、美しい花々が咲き乱れる楽園のような場所です。

初めてここに来た人々は、恐ろしいブラックホールの先にこのような楽園があるとは思ってもいませのでびっくりです。

私達は船を降りて、この世界のマスターが来るまで、皆さんにこの世界の事を説明しています。

しばらくすると「宇宙の大地」のマスターが、まるで庭仕事をしている園芸家のような姿をして現れました。

「いや、誰かと思ったら TAKESHI さん、ではないですか、そして、立派なスターピープルの皆さんもご一緒ですね。そうですか、最近外の世界がやけに澄み渡り闇のエネルギーが少なくなったとおもったら、これは皆さんの仕事ですな、」
そういつて「宇宙の大地」のマスターは、笑い出します。

「「ゴールド・ルシファー」からも先ほど連絡が入り、TAKESHI さん達が、いなくなった種族を探しているとの事でしたが、ここに来られた理由はその事ですか。」

「マスターよ、お久しぶりです。
いつもあなたからお教えいただいたことを心に刻んで活動しています。
実はその通りなのです。
はるか昔に、いなくなった種族で、地球の原初の種族たちと共に活動していた種族を探しているのですが、御存じはないですか。」

「彼等なら、おそらくここにいる種族の事でしょう。
私と一緒に庭仕事をしている者達がそうではないでしょうか。
彼等は、遠い昔、闇に落ちた創造主によって、ブラックホールを通り抜けて、この場所まで落とされ、封印されていたのですが、あまりにもかわいそうなので、私が封印を解いてあげました。
しかし、この場所からは出ることができずに、私の仕事をずっと手伝ってくれていたのです。」
と言って花の苗とスコップを見せてくれました。

「しかし、彼等を閉じ込めていた闇の力が、急になくなって彼等も驚いていた様子です。
私は、きっとあなた方が、彼等を封印していた創造主を何とかしたのだらうと思っていました。」

私達が話している様子に気づいて、力強い姿をしたスターピープル達が近づいてきました。
「皆さんは、私達の事を迎えにきてくださったのですか。
私達は、こちらのマスターから、封印を解いていただきある程度動けるようになりましたが、ここを出る事はできませんでした。
大きな闇の創造主の力によって、私達は全ての能力を奪われ、自由に活動する事もこの場所を出る事も出来ず、長い時を過ごしておりました。
しかし、最近、急に私達を押しとどめていた力がなくなったことを感じたのです。
私達を閉じ込めていた創造主が、私達を許してくれたのでしょうか。」

このことに関してロッド星人が、彼らに説明しています。
「いえ、あなた方を閉じ込めていた「怒れる創造主」と呼ばれる創造主は、TAKESHI さん達の働きにより、第7評議会の創造主から、光に返されました。
あなた方を許したわけではありませんが、光に返ったために、あなた方を拘束していた力がなくなったのです。」

「すると、私達はもう自由になれたという事ですか。」
「もちろんそうです。
あなた方だけでなく、地球の原初の種族だったスターピープルも女性性にあふれた種族も、皆さん助け出されました。
現在宇宙連合で治療を受けていますので、もうすぐ皆さんともお会いできると思います。」

「そうですか、それはありがとうございます。

皆さんのおかげで、私達全ての種族が助かりました。」

種族の仲間達もすべて集まってきて、自分達が自由になれたことを喜んでいます。

「皆さんは、どのような役目を持つ種族であるか教えていただけますか。

宇宙連合では、おそらくあなた方は滅び去った種族となっていますから、皆さんが戻ってくる事を、私達の仲間も心待ちにしていると思います。」

「そうですね、それも仕方がないことですが、私達が戻ったら、また皆さんと共に活動できるのならば、とてもうれしく思います。

私達の種族の役割は、人々や宇宙をグラウディングさせて安定させることです。

ちょうど、この場所は、私達の役割とぴったりの場所でしたので、私達は、マスターから様々な教えをいただき学んでおりました。」

私は、「宇宙の大地」のマスターに尋ねます。

「マスター、私達はこの人たちを連れて行ってもよいのですか。」

「もちろんだよ、彼等が元いた場所に戻すことが大切なことだよ。」と少し寂しそうに笑います。

私達は、これでリラ星のリーダーが心配していた3つの種族を救出することができました。

アシュタールの最後の一隻の船に乗せて、私達は「宇宙の大地」を出発しました。

彼等が言うには、この3種族は、光を持つ地球を作り出す為に、創造主から地球に遣わされた種族で、共に協力して仕事をするように計画されていたようです。

私は、どの創造主が、この種族を作ったのか気になって、この3種族を作った創造主に出てきてくれるようお願いしました。

すると第7評議会の創造主で私のスピリットととても深い関係にある創造主が出てきてくれました。

今回、彼等を闇の中に閉じ込めた「怒れる創造主」を光に返してくれたのもこの創造主です。

「TAKESHIさん、この3種族は、私も随分探していたのですが見つけることができなかったのです。

彼等は、私がまだ第4評議会にいた時に、私の宇宙を創造する為に生み出した種族でした。」

私は、どうして彼等がブラックホールの中に閉じ込められていたのか、創造主に聞きました。

「私は、彼等を光の地球を作るために、協力して仕事をするように地球に送りこんだのですが、「怒れる創造主」に地球は破壊され、彼等は私の知らない所に隠されてしまったのです。

その時、確固たる証拠がなくて「怒れる創造主」を処罰することができず、私も苦しんでいました。

彼等さえ見つけることができればと思い、一生懸命探しましたが見つけることはできませんでした。

しかし、「怒れる創造主」が、光に返されたことで、私の大切な種族達も無事に出てくることができました。

TAKESHIさん、皆さん本当にありがとうございました。」

第7評議会の創造主の姿を久しぶりに見たスターピープル達はとても喜んでいました。

久しぶりといっても、遥50億年くらい前の話でしょう。

私達には気が遠くなる時間ですが、その時間の間、私と深い関係にある「全てを見守る創造主」と「怒れる創造主」の確執は続いていたようです。

そして、地球のアセンションと共に、その確執は終わろうとしています。」

PART 4 光の世界へ

今回の地球のアセンションは、様々な意味を持っていました。

地球人に対しては、大きな闇を乗り越えた種族としてアセンションしていく事が求められていました。

地球人は、物理的な世界に長く生きてきたばかりに、自分達の精神性や愛を大切にすることを忘れ、様々な欲望を育んできました。

その結果、ダークピープル達に利用され、支配されてきたのです。

しかし、その様な地球人であっても、中にはしっかりとした愛を持ち続けた人や地球や宇宙に対する尊敬を持ち続けてきた人もいます。

創造主は、その様な人達を救うために「光の地球」を作りました。

未だ純粋な心を持つ人達は、一足先に「光の地球」に入り、自然の中で不自由ではありますが、楽しい生活を送っています。

また、人々の中でも光56%から光59%のアセンションした地球にはいる人々が行なうべき事もあります。それは、地球のアセンションを支えてくれたスターピープル達と共に、皆さんがスターピープルとして、学びを行い、成長し共に活動することです。

地球人は今よりも発展した技術を開発するでしょう。

しかしそれは核兵器などのように、地球と人々を不幸にする技術ではなく、地球と宇宙の環境を守り、地球人が宇宙に貢献できるための技術です。

これから光56%から59%の世界に入る人は、スターピープルと現実世界で対面するファーストコンタクトを2017年には迎え、スターピープルと共に歩む道を選び成長していくでしょう。

そして、十分な成長を得た人は、「光の地球」にはいり、スターピープルとしての本格的な活動を始めることとなります。

多くのスターピープルと私は、これから、この世界で活動することになります。

そしてこのアセンションは、創造主の世界も大きく変えました。

「怒れる創造主」や「変化を促す創造主」達によって、この宇宙は闇が多い宇宙となり、闇の創造主が支配する宇宙となりました。

そのために、私達は、高次の創造主からの任務を持ってこの地球に降りてきたのです。

その任務とは、闇に落ちた創造主を全て光に返し、創造主達の世界を生まれ変わらせることです。

私達は、最初に、物理世界に近い創造主達と向かい合い、問題を解結してきました。

そして1段ずつ階段を上るように、創造主の世界をのぼり、多くの創造主と向き合ってきました。

その過程で、闇に落ち、人を支配することを求める創造主は光に返っていきました。

やがて、闇に落ちて創造主や人々を苦しめていた創造主はいなくなりました。

宇宙も光と闇が適正な配分に戻り、これから、宇宙を脅かす闇の創造主も少なくなり平和で創造的な宇宙が生まれてくることでしょう。

今回のアセンションの最大の目的は、この創造主の立て直しであったと私は思います。

またスターピープルたちにとってもこのアセンションは、多くの仲間達を助け出すために必要なアセンションでした。

多くのスターピープルたちが、この地球と宇宙に君臨する闇の創造主によって束縛され、光を奪われ、途方もない時間、闇の中に閉じ込められていました。

その多くを開放し、彼らを自由にしてあげたことは、スターピープルたちにとっても大きな喜びでした。彼らは闇の中で過ごした時間から解放され、今、光の中で自由に過ごしているのです。そして、とても深い叡智を持つ古代のスターピープル達の種族達が解放されることで、天の川銀河だけでなく多くの銀河や星団もこれから目覚ましく発展していく事となるでしょう。

そして私達にとってかけがえのない地球、かけがえのない宇宙も、多くの闇の創造主とダークピープルから解放されていきました。

闇の創造主から、通常の配分よりも多い闇のエネルギーを流し込まれ、宇宙もそして地球も闇が多い世界となっていたために、人々も健全に成長していく事ができずに苦しんでいましたが、これからは光が多い宇宙になりますので、私達はもっと豊かな愛をもって成長していくことができます。

そうすることで、この地球も宇宙もさらに成長していけるのです。

それは、地球と宇宙にとってのアセンションです。

ただ、人の為、地球の為だけでなく、スターピープルたちも創造主達も、全ての存在が適正な光の世界に向けて歩み始めることができるようになったアセンション。

それは、地球のためのアセンションであり、宇宙とスターピープルと創造主のためのアセンションでした。

しかし、地球人にとって、アセンションを迎える為の学びはまだ続きます、本当の意味で、これからの学びが、地球人である皆さんがアセンションできるかできないかという判断に関わってきます。

地球人全てがアセンションできる訳ではありません。

地球人の中で、愛の度数を高め、スターピープルと宇宙の事を深く理解し、宇宙のために活躍できる人だけがアセンションしていけるのです。

自分の欲にしがみつき、他人を支配したい、他人に依存したい、お金儲けだけが目的、自分の欲望を満たすことだけが目的という人には、アセンションの機会などは当然訪れません。

これからも、自分が望む世界で生きていく事でしょう。

しかし私達と皆さんは、この時期に地球に生れてきたという事は、私達と皆さんの魂は、すでにアセンションすることを望んできているのだという事を理解してください。

それならば、この機会に必ずアセンションできるように努力しましょう。

そして、スターピープルとなって、さらに深い愛に満ちていきましょう。

光りの世界の区分（極秘事項）

○光りの世界の区分

ここでは、まず光の地球といっても一つではなく、光に応じていくつもの地球に分かれていることをお知らせしておきます。

そして、ここでは大まかに60%台、70%台と書いていますが、本当は、1%単位で世界が異なっていますが、大まかな区分のみで説明させていただきます。

地球の光と闇の割合は、およそ光40%、闇60%、現在はもう少し光の割合が多い世界のようなようです。

この割合の世界では、闇の力が強いので、戦争やテロ、殺人や虐待、人種差別などが起こりますが、光の割合が50%を超えると、戦争や殺人などもほとんど起こらなくなりますが、まだ学びが必要な人には、その学びにふさわしいことが起こります。

60%台になると、愛と調和に満ちた人々が増えてきますので、人間としての完成を目指すような学びが始まります。

しかしそれは争いなどの人を傷つけることではなく、どれほど愛を注げるか、とかどれほど人のために尽くせるかなどといった、とてもポジティブな学びになります。

また人々も、言葉でなく意思疎通ができるようになりますので、嘘を言ったり心の中に隠し事ができなくなるような世界になるかもしれません。

そしてさらに大切なことは、スターピープル達に対する理解が求められるようになります。

更に光りの度合いが70%よりも強くなると、学びが少なくなり、愛と共に生きるようになりますので、争いや差別などもほとんど起こらずに調和に満ちた世界が繰り広げられます。

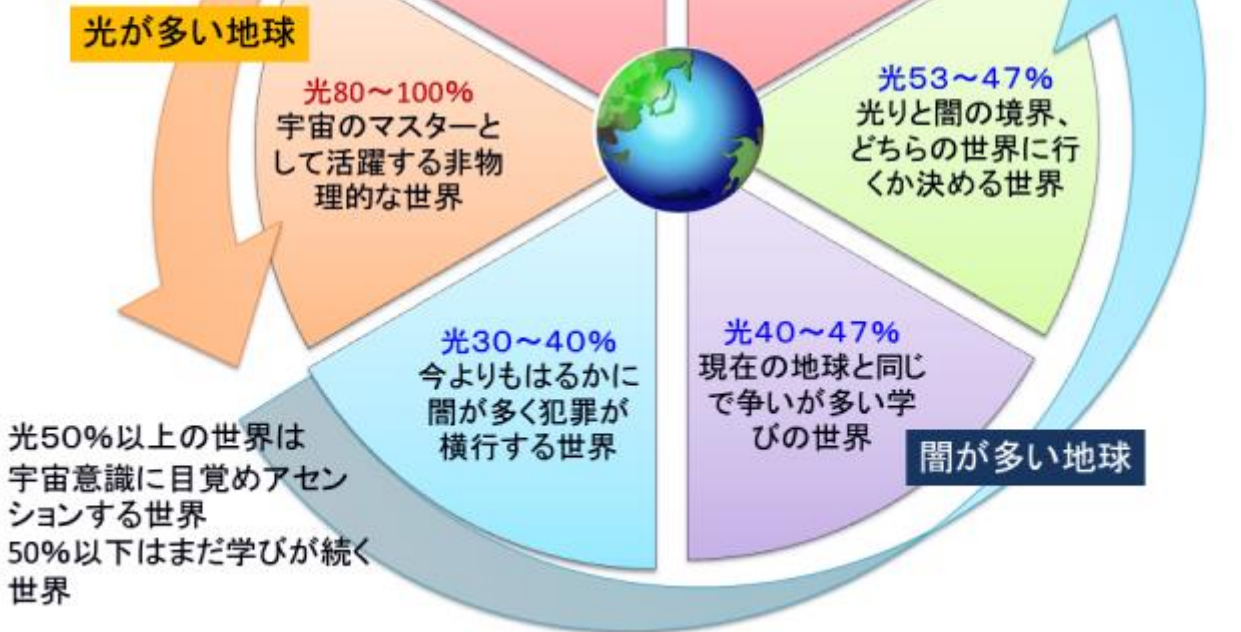
生きている人では70%台が最高クラスになるようです。

更に光りの割合が80%を超えると、もう物理世界に生きている人はほとんどいなくなり、宇宙の運営に関わる仕事を始めることでしょう。

それでは、どのような人がどのような世界に入れるか、創造主の極秘事項ですが、こっそりお教えしますので、少しでも上の世界に入れるよう努力してください。

またこのことは、私達の主観ですので、違うと思う人は信じる必要はありません。

人間は自分の心の光の状態に応じていく世界が決まります。
 学びが多い世界も愛と調和に満ちた世界も、全てあなたのために必要な世界です。



<p>光90%台の世界 宇宙のマスターの世界</p>	<p>宇宙の管理者として働くスピリチュアルな存在達の世界。 憎しみや争いなどとは無縁で愛と調和のみが存在する世界。 また宇宙の管理者となるべく学びを行う世界。 自らが愛と光りになるために学びを行うスピリット達の世界。</p>
<p>光80%台の世界 宇宙と地球に生きるマスターの世界</p>	<p>宇宙のために働くスピリチュアルな領域に生きる人々。 自らもスターピープルとなり、宇宙の中にある様々な問題の解決のために働くことを喜びとしているスピリット達。 ここに入る人は、宇宙で起きていることを深く理解し、常に真実を求め努力してきた人。 地球においては、地球の中にある不正を知り、それを正すために戦い、地球と地球に生きる人々を自由で平和な者にするために常に努力してきた人々。 この地球の闇を知りながらも、憎しみを捨て愛によって生きてきた人たち。 人間としてのエゴを捨て、自分の人生を他人のために奉仕してきた人達。</p>
<p>光70%台の世界 物理的な光の地球での指導者の世界</p>	<p>光80%の人達と同じように、地球の闇と闘い続けてきた人達の中で、自分のエゴや欲望を捨て、愛の人として生きる実践を行う人々。 またスターピープルのことを深く知り、彼らと共に働ける人。 自分の感情に振り回されずに常にニュートラルな立場にあって真実を追い求める人</p>

	<p>地球と人の事を、愛をもって考え行動してきた人達が、肉体を失った後に行く世界。 現実世界に生きる人も少数存在し、地球の人たちが光りの世界に行くためのサポートをスピリチュアル・レベル、現実レベルで行う。 60%台の世界の学びを終えてからこの世界に来ることが多いようです。</p>
<p>光60%台の世界 地球では光の世界として新しく生まれた世界。 宇宙意識に目覚めるための世界</p>	<p>60%台の後半の人は・・・ 常に正義と愛のために生きてきた人。 欲望に振り回されず、欲望と感情を上手にコントロールできて、自分の中の光と闇を統合してきた人。 スターピープルのことを理解し上手に付き合うことができる人 この世界は、さらに上の世界に行くための通過点として、肉体をもって学びを行う人たちが入る世界。 少数民族の人たちの仲でも、一般社会を知りながらも、その社会に毒されず、常に祈りを行ってきたシャーマンや神官、少数民族の文化やしきたりを守ってきた人々。 ここに属する人は、これからの「光の地球」をしっかりと守護し、人々を導いていく立場にある。</p> <p>60%前半の人は・・・ 光の世界にはいる為の教育が行われる世界。 地球や宇宙の仕組みを学ぶために生きてきた人達で、さらにその学びを続ける人。 しっかりと愛や調和を目指して生きてきたが、まだ十分に実現出来ておらず、自分の中の光と闇もしっかりと統合できていない人。 周りの人に対して愛と奉仕の気持ちを持って生きてきたが、今まで宇宙や地球に対しての理解も十分でなくスターピープルの事もよく知らない人達が、学びを行うための場所。 この世界では争いや戦争、差別や虐待もなくなり、地球人同士でも愛に基づいた関係がはじまり、安らぎと光りに満ちた世界が生まれてくる。</p>
<p>光56%～59%の世界 光が多い学びの世界</p>	<p>この世界からがアセンションした世界としてスターピープル達により保護される世界になります。 今の地球よりはさらに光がある世界で、戦争や争い、虐待、殺人などは減り、愛と調和に満ち、自然破壊などもなくなり環境問題も解決していく世界となるでしょう。 この世界に行く人は、今の世界でも良心を持って生きてきた人で、人の役に立ちたいと考えて生きてきた人達です。 そして、地球人としての進化を望む人がこの世界に入り、光の世界へ入るための学びを行います。 この世界の学びは「愛の実践」です。 宇宙の愛を身につけ、人のために奉仕することがこの世界の学びとなります。 この世界で学びを終わった人は、本格的なアセンションの世界である光60%以上の世界に生まれ変わります。</p> <p>強い欲望や支配欲を持った人や人と争うことが好きな人は入れません。 人をだました人、人に不正を働く人、自己中心的な人は入れません。</p>

<p>光 4 7 % ~ 5 5 % の世界 光と闇の境界の世 界</p>	<p>ここは光りの世界と闇の世界の境界線にあたる世界で、中間の世界とも呼ばれています。現在の地球よりは、光が強くなりますので、戦争や虐待などはすこしずつ減ります。時間がたつにつれ、現在よりはまともな政治家や経済人が現れ、社会の変革も進むでしょう。</p> <p>この世界にはいる人は、戦争や支配、抑圧のある世界を嫌っている人で、もっと愛に満ちた世界、調和のある世界に入りたいと考えている人達です。</p> <p>また他人のために役に立ちたいと思い行動している人や他人に親切にすることが好きな人達がこの世界に入ってきます。</p> <p>ただしこの世界には、狡猾な地球外存在達もすでに入り込んでいるので社会の混乱や自然災害も起こりますので、その様なことを乗り越えていく事が、この世界の人々の学びとなります。</p> <p>ヒーリングやスピリチュアルな仕事をしている人でも、人々の幸福のために働いている人は、この世界に入りますが、物欲や支配欲、名誉欲のためにしている人は、ここからさらに下の世界に行くこととなります。</p>
<p>光 4 0 % ~ 4 7 % の世界 現在の地 球と同じ学びの世 界</p>	<p>ここからが、アセンションとは反対にディセンションした世界となります。</p> <p>光 4 0 % 台の世界は、今までとほとんど変わらない世界で、戦争や争い、テロ、詐欺、レイプ、傷害などが日常的に起こっている世界です。</p> <p>経済的な侵略によって、世界の人々は貧富の差が激しくなり差別を受けます。</p> <p>宗教、技術、論理もすべてが争いのために利用されます。</p> <p>この世界に行く人は、自然災害や戦争、原発の事故なども含め、現在の地球が体験する未来をともに体験することとなります。</p> <p>現状の世界を好みお金儲けやぜいたくな生活をしたい人達、人や自分や他人にたいして不誠実な生き方をしてきた人達は、この世界にそのまま残るようです。</p> <p>他人を支配をしようと思う人、他人に依存したり、他人支配されることを好む人もこの世界にとどまります。</p> <p>この世界は多くの地球外生命体達も存在しますので、彼等の支配をうけず自立していく事が、この世界の学びとなるでしょう。</p>
<p>光 3 0 % 台の世界 闇が多い学びの世 界</p>	<p>今の地球よりもさらに闇が多くなりますので、現在よりも状況がはるかに悪くなります。戦争やテロが多発し、多くの人々が争いや原発事故、自然災害に巻き込まれ苦難の多い人生を送ることになるでしょう。</p> <p>そして人々はその中で多くの事を学び目覚めていくための機会を待つことになると思います。</p> <p>この世界には、多くの欲望に取り付かれ、他人を支配したり傷つけることを好んで行ってきた人たちがいく世界になると思います。</p>